



令和元年6月11日

内閣府沖縄振興局

永田クラブ、経済研究会、沖縄総合事務局記者クラブへ配布

沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート結果の公表について

内閣府においては、沖縄の子供を取り巻く厳しい状況を踏まえて緊急的に措置を講じることとし、平成28年度より沖縄子供の貧困緊急対策事業を実施しており、各年度の実施状況についてアンケート調査を行っております。

この度、平成30年度に実施したアンケート調査の結果を取りまとめましたので、お知らせいたします。（詳細は別紙参照）

1. 調査概要

- 調査目的 子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現を目指し、沖縄子供の貧困緊急対策事業の効果的な実施のため、沖縄県の支援を受けている子どもの現状等を把握することを目的とする。
- 調査実施期間 平成30年10月～11月
- 調査方法 内閣府の「沖縄子供の貧困緊急対策事業」として沖縄県が大阪府立大学に委託して調査を実施。
- 調査種別と
 回答状況 ①居場所配布（保護者用） 689件（回収率：34.6%）
 ②居場所配布（子ども用） 1,342件（回収率：50.1%）
 ③支援員配布（保護者用） 343件（回収率：57.5%）

2. アンケート結果（抜粋）

○居場所を利用した子どもの保護者からの回答

（問） お子さんが居場所を利用するようになって良かったと思うか

（問） 不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがあるか

| | 調査 時点 |
|-----------------|----------|
| ①そう思う | 78.1% |
| ②どちらかといえばそう思う | 15.4% |
| ③どちらかといえばそう思わない | 1.2% |
| ④そう思わない | 0.1% |
| ⑤無効・無回答 | 5.2% |

| | 居場所 利用前 | 調査 時点 |
|------------|------------|----------|
| ①あてはまる | 31.6% | 13.1% |
| ②ややあてはまる | 37.9% | 37.4% |
| ③ややあてはまらない | 15.2% | 28.0% |
| ④あてはまらない | 11.5% | 17.4% |
| ⑤無効・無回答 | 3.8% | 4.1% |

○居場所を利用した子どもからの回答

(問) この居場所に来て良かったと思うか

| | 調査時点 |
|-----------------|-------|
| ①そう思う | 67.1% |
| ②どちらかといえばそう思う | 17.8% |
| ③どちらかといえばそう思わない | 4.0% |
| ④そう思わない | 2.2% |
| ⑤無効・無回答 | 8.9% |

(問) 学校の勉強がわかるか

| | 居場所利用前 | 調査時点 |
|------------|--------|-------|
| ①よくわかる | 27.1% | 36.9% |
| ②だいたいわかる | 38.1% | 40.9% |
| ③あまりわからない | 19.8% | 12.5% |
| ④ほとんどわからない | 10.7% | 6.2% |
| ⑤わからない | 4.3% | 3.5% |

○支援員から支援を受けた保護者からの回答

(問) 支援員と会って良かったか

| | 調査時点 |
|-----------------|-------|
| ①そう思う | 67.6% |
| ②どちらかといえばそう思う | 22.7% |
| ③どちらかといえばそう思わない | 1.7% |
| ④そう思わない | 0.6% |
| ⑤無効・無回答 | 7.3% |

(問) 自分一人で育てているという圧迫感を感じる

| | 支援員と会う前 | 調査時点 |
|------------|---------|-------|
| ①あてはまる | 29.2% | 12.0% |
| ②ややあてはまる | 21.3% | 23.6% |
| ③ややあてはまらない | 22.7% | 26.5% |
| ④あてはまらない | 21.3% | 31.8% |
| ⑤無回答 | 5.5% | 6.1% |

3. 調査結果の考察 (抜粋)

○居場所について (保護者からの回答)

子どもが居場所を利用する前と後を比較した場合、「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」「子どもを育てるために我慢している」「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」について「あてはまる」と回答した割合がいずれも減少している。

⇒ これらの変化から、居場所を利用することにより、保護者に対しても効果があることが明らかになったと言える。

○居場所について (子どもからの回答)

居場所の利用前後で、学習時間や学習理解度、支えてくれる人の数、自己効力感についてポジティブな変化がみられた。

⇒ 居場所支援は一定の効果を発揮することが示唆される。

○支援員について (保護者からの回答)

支援員からサポートを受けたことで、子どもとの関わりが改善したり、子育てに対する心理的な負担感が軽減したり、心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人や気持ちを察して思いやってくれる人など日常生活をサポートしてくれる人が増えたりといった、保護者のソーシャルキャピタルにかかるポジティブな効果が見られた。

その他、調査の詳細については、別紙「平成30年度沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート調査結果について (概要)」を御覧ください。

【本件連絡先】

内閣府沖縄振興局事業振興室 矢島、鈴木、名護
 電話：03-6257-1661
 FAX：03-3581-0952

平成30年度
沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート
調査結果について

(概要)

令和元年6月11日

内閣府沖縄振興局事業振興室
沖縄県子ども生活福祉部子ども未来政策課

目次

| | |
|-----------------------|----|
| 調査概要 | 1 |
| 1 居場所に関する調査結果（保護者の回答） | 2 |
| 2 居場所に関する調査結果（子どもの回答） | 5 |
| 3 支援員に関する調査結果（保護者の回答） | 15 |
| 調査結果の考察（総合考察） | 33 |
| 子どもの声（自由記述欄より） | 34 |
| 保護者の声（自由記述欄より） | 35 |

■ 調査概要

1 調査の目的

子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現を目指し、沖縄子供の貧困緊急対策事業の効果的な実施のため、沖縄県の支援を受けている子どもの現状等を把握することを目的とする。

2 調査票種別

- (1) 居場所配布(保護者用、子ども用)
- (2) 支援員配布(保護者用)

3 調査実施日

平成30年10月～11月

4 収集方法・回収状況

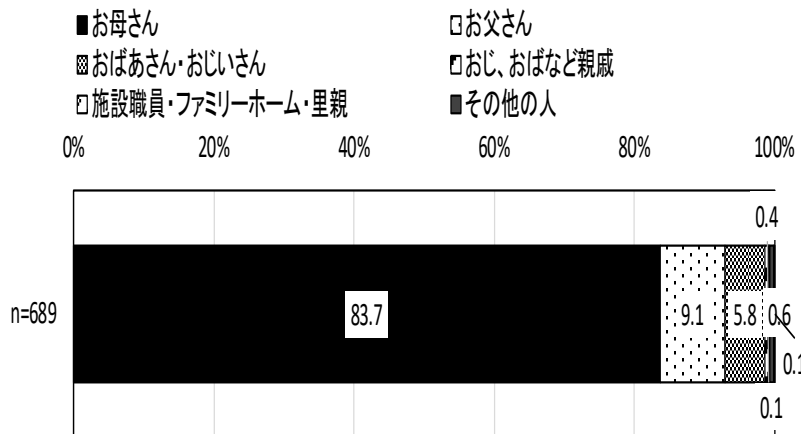
市町村が調査票を配付・回収し、受託者が集計

| | | |
|----------|------------|------------------------|
| 居場所・保護者用 | 配付数:1,991件 | 回収数(回収率):689件(34.6%) |
| 居場所・子ども用 | 配付数:2,679件 | 回収数(回収率):1,342件(50.1%) |
| 支援員・保護者用 | 配付数:597件 | 回収数(回収率):343件(57.5%) |

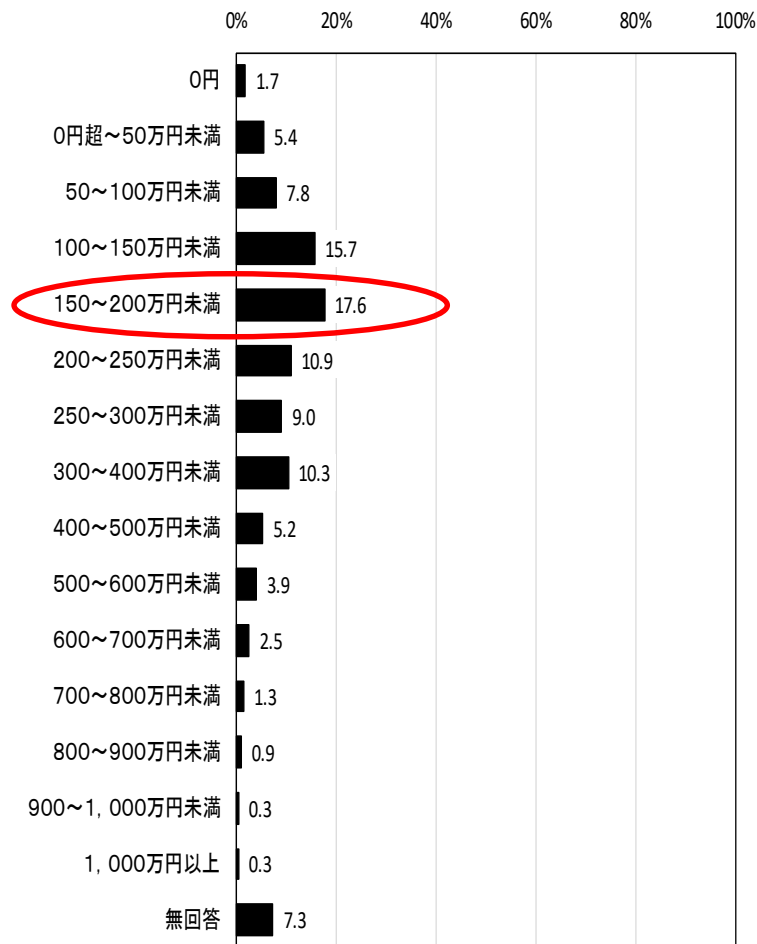
1 居場所に関する調査結果（保護者の回答）

◇ 【保護者票】 回答者の続柄

◇ 【保護者票】 前年(2017年)世帯収入



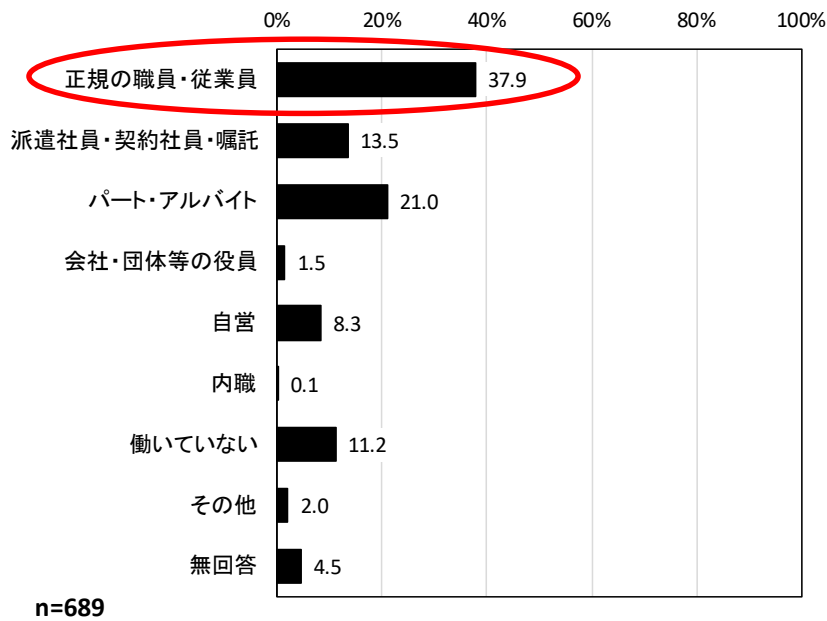
回答者の有効サンプルは689名
 続柄は、
 「お母さん」が83.7%、
 「お父さん」が9.1%、
 「おばあさん・おじいさん」が5.8% となっている。



前年の世帯収入の合計額は、
 「150～200万円未満」が17.6%でもっとも回答割合が高く、
 次いで「100～150万円未満」が15.7%、
 「200～250万円未満」が10.9%となっている。

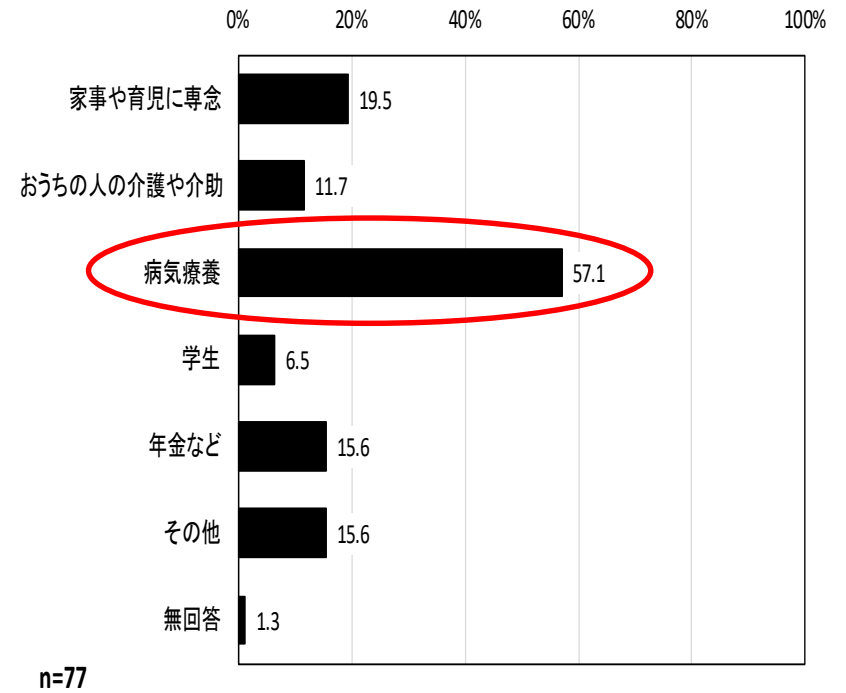
■ 保護者の就労状況

◇ 【保護者票】 就労状況



就労状況は、「正規の職員・従業員」が37.9%でもっとも回答割合が高く、次いで「パート・アルバイト」が21.0%、「派遣社員・契約社員・嘱託」が13.5%となっている。

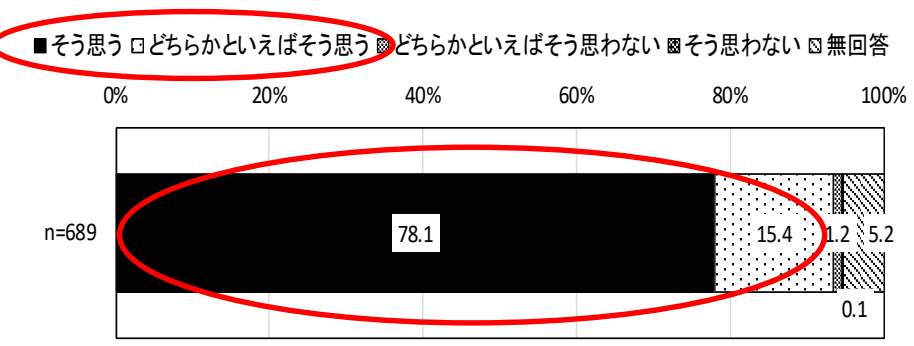
◇ 【保護者票】 働いていない理由



働いていない理由は、「病気療養」が57.1%でもっとも回答割合が高く、次いで「家事や育児に専念」が19.5%、「年金など」と「その他」が15.6%となっている。

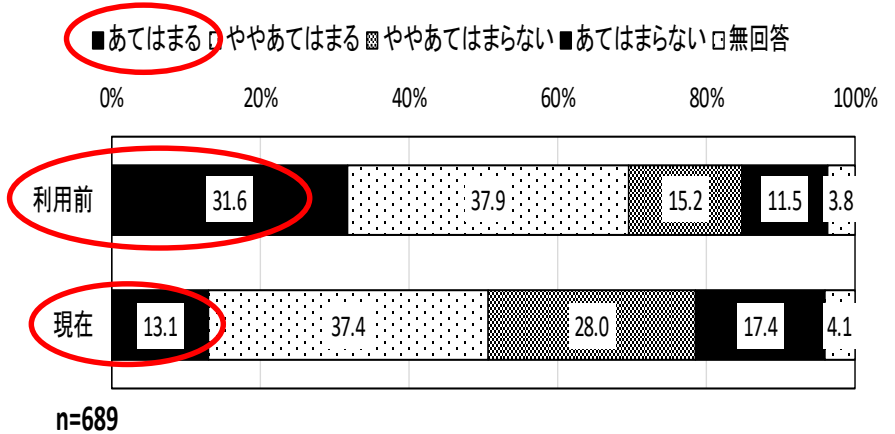
■ 保護者の変化

◇【保護者票】お子さんが居場所を利用するようになって良かったと思うか



居場所を利用するようになって良かったかをみると、「そう思う」が78.1%で、「どちらかといえばそう思う」が15.4%で、あわせて93.5%が肯定的な評価をしている。

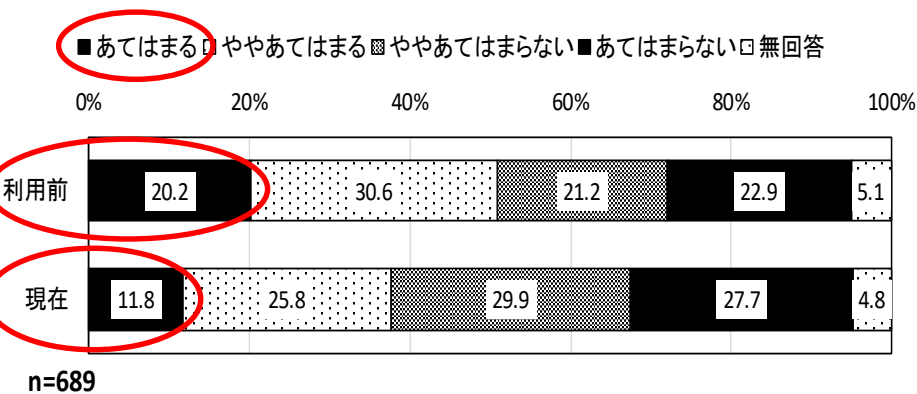
◇【保護者票】不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある



子どもが居場所を利用する前と現在を比較した場合、「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」について、「あてはまる」と回答した割合が18.5ポイント減少している。

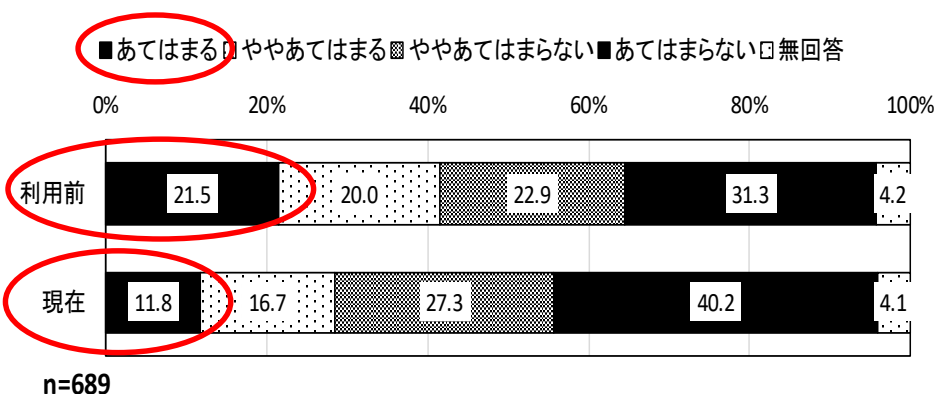
■保護者の変化

◇【保護者票】子どもを育てるために我慢している



子どもが居場所を利用する前と現在を比較した場合、「子どもを育てるために我慢している」について、「あてはまる」と回答した割合が8.4ポイント減少している。

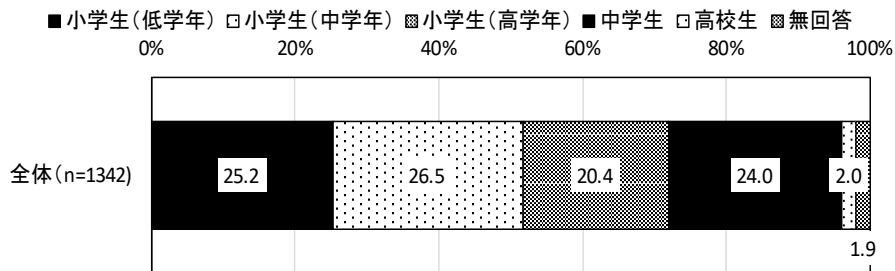
◇【保護者票】自分一人で育てているという圧迫感を感じる



子どもが居場所を利用する前と現在を比較した場合、「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」について、「あてはまる」と回答した割合が9.7ポイント減少している。

2 居場所に関する調査結果（子どもの回答）

◇【子ども票】回答者の内訳

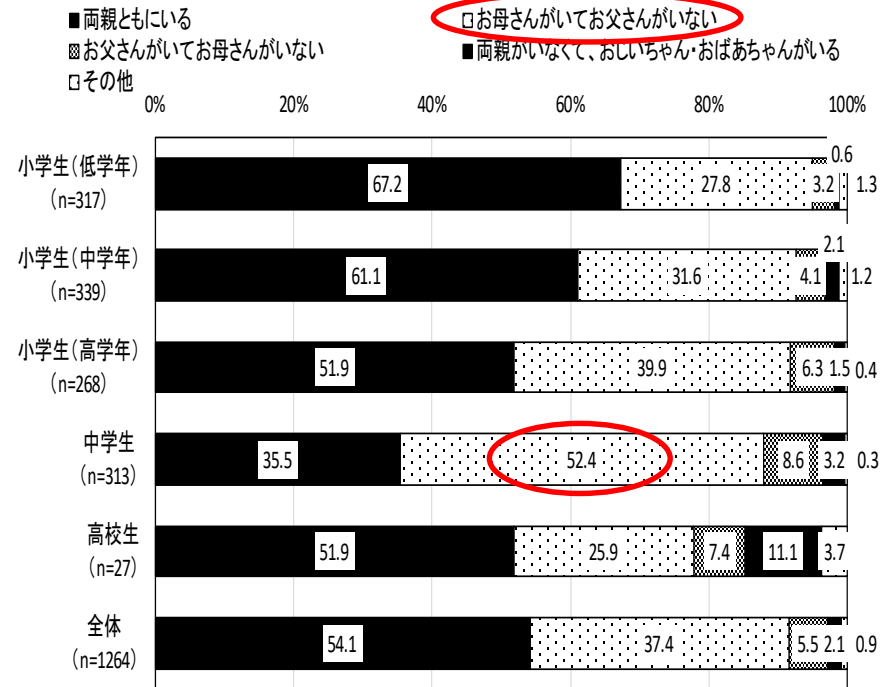


回答者の有効サンプルは1342名

内訳は、

「小学生(低学年)」が338名で25.2%、
 「小学生(中学年)」が355名で26.5%、
 「小学生(高学年)」が274名で20.4%、
 「中学生」が322名で24.0%、
 「高校生」が27名で2.0% となっている。

◇【子ども票】回答者の世帯構成

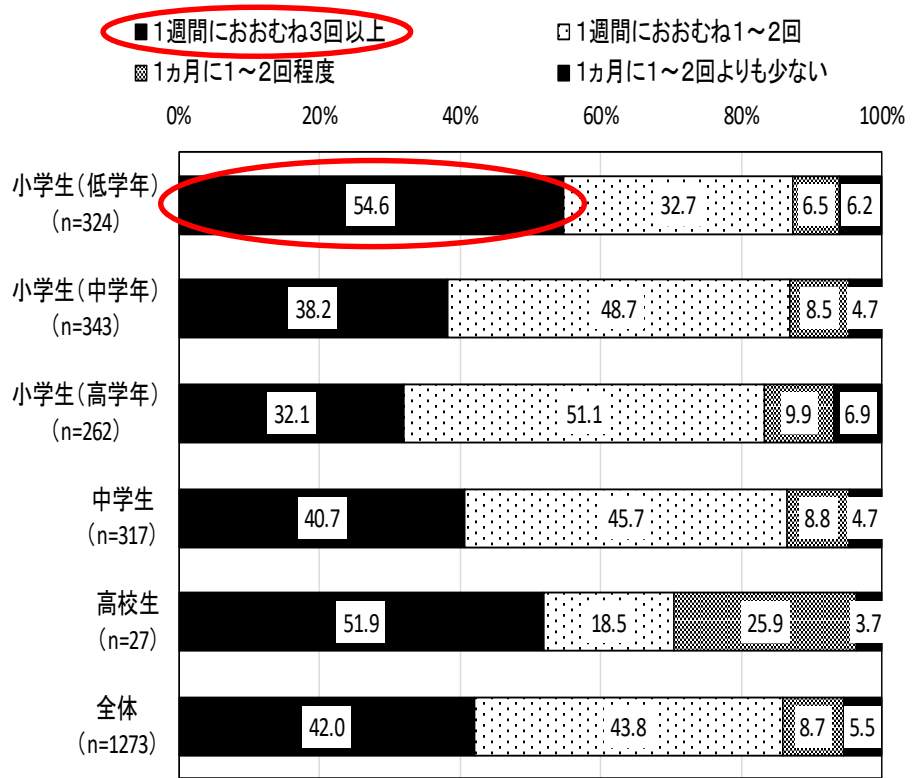


小学生は「両親ともにいる」が5割～7割程度、
 中学生・高校生は「両親ともにいる」が4割～5割程度

母子家庭の割合がもっとも高いのは、
 52.4%の中学生となっている。

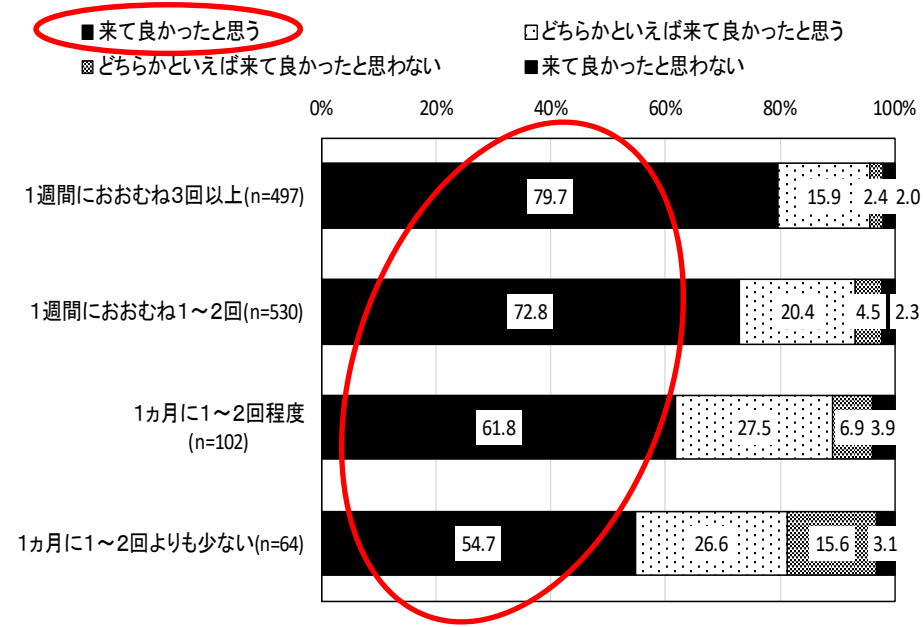
■ 居場所に関すること

◇ 【子ども票】 居場所に来る回数



居場所に来る回数について見ると、小学生(低学年)において「一週間におおむね3回以上」の割合が54.6%と一番高くなっている。

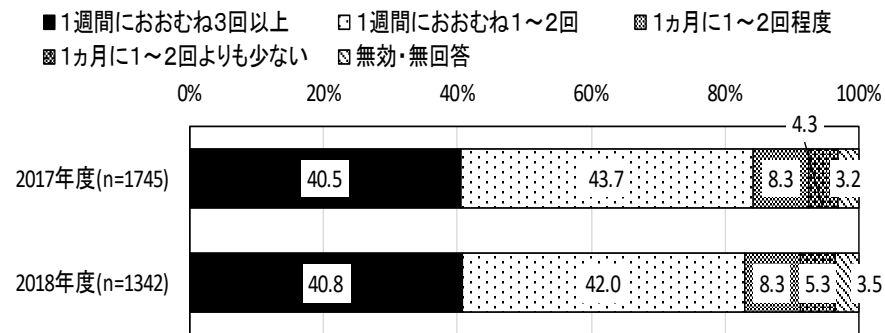
◇ 【子ども票】 利用頻度別の居場所に来た感想



居場所の利用頻度が高いほど、「来て良かったと思う」の割合が高くなっている。

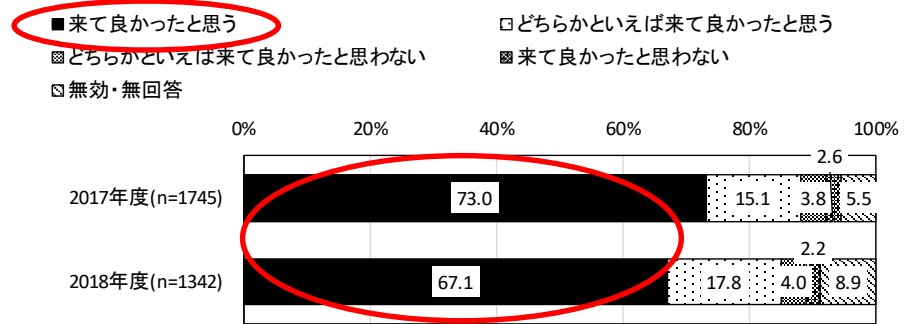
■ 居場所に関すること (2017年度と2018年度の比較)

◇ 【子ども票】 2017年度と2018年度の居場所に来る回数



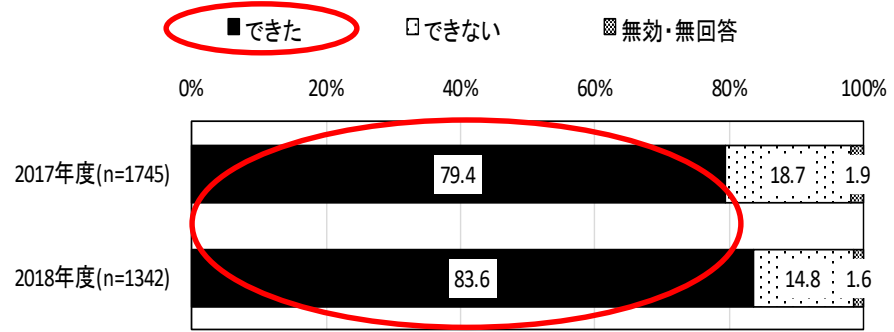
居場所に来る回数もほぼ変わらず、「1週間におおむね3回以上」と「1週間におおむね1~2回」が約40%ずつとなっている。

◇ 【子ども票】 2017年度と2018年度の居場所の感想



居場所に来た感想をみると、2017年度に比べて2018年度では「来て良かったと思う」と回答する割合が約6ポイントとわずかではあるが低下している。

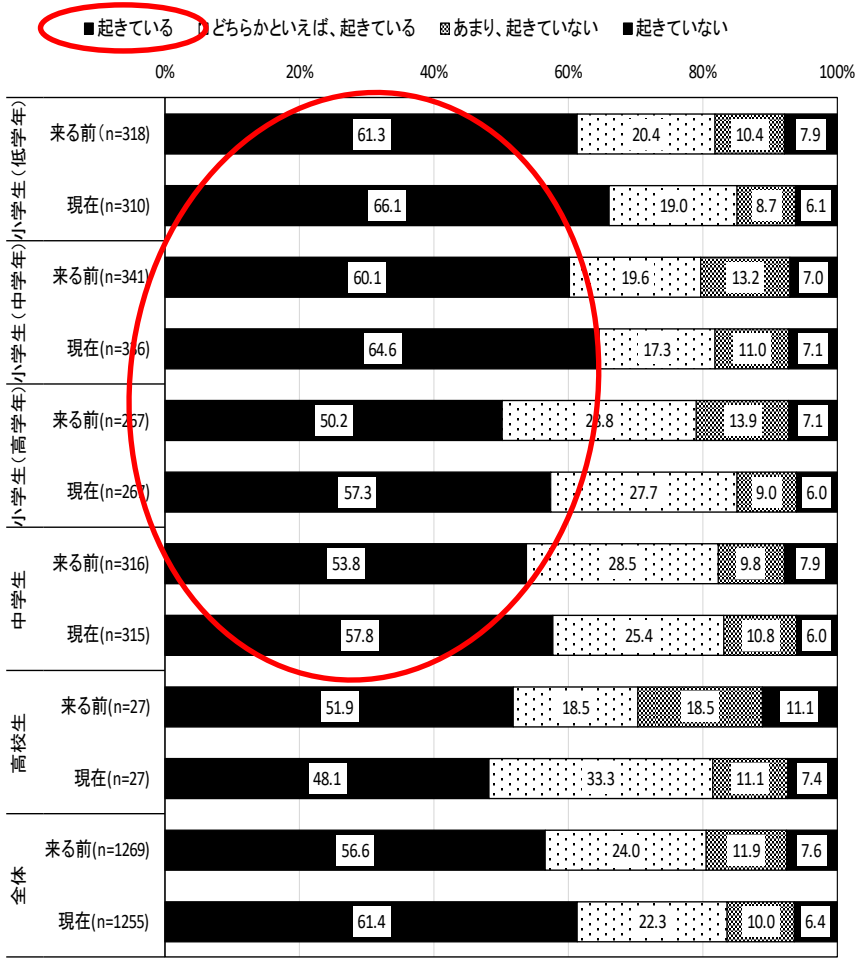
◇ 【子ども票】 2017年度と2018年度 居場所に来てから友だちができたか



居場所に来てから友だちができたかどうかをみると、2018年度では「できた」の割合がわずかに上昇している。

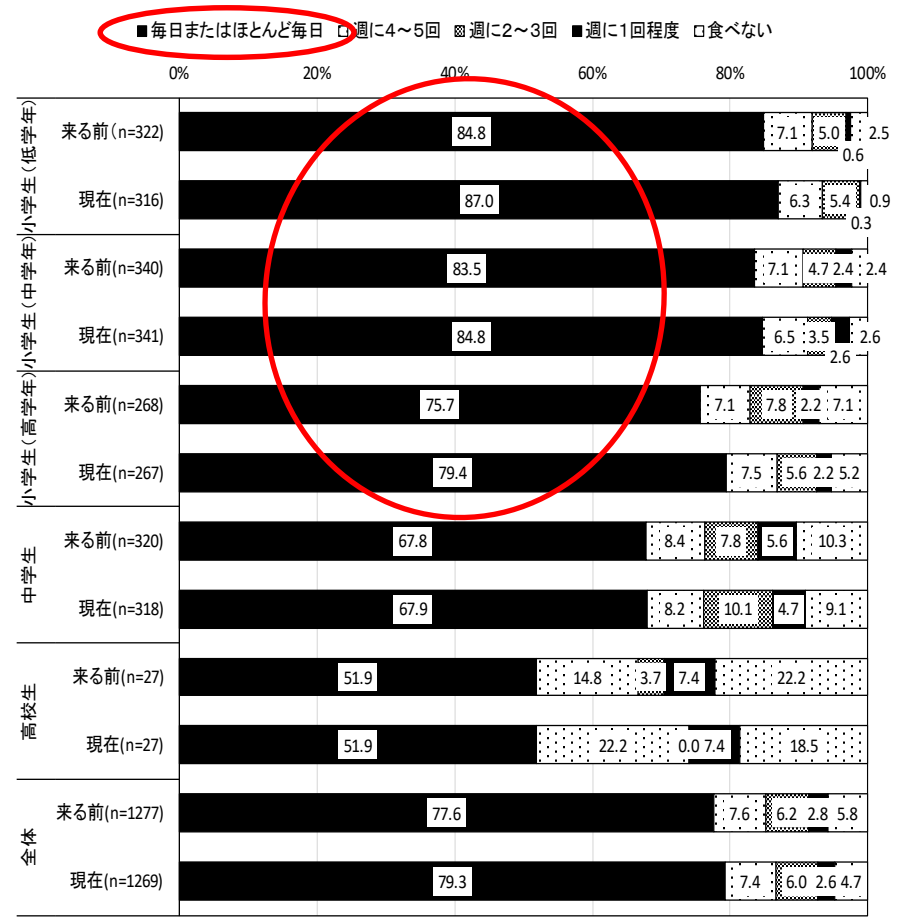
子どもたちの変化 ①生活環境

◇【子ども票】起床時間の規則性 (ふだん、ほぼ同じ時刻に起きているか)



来る前と現在の変化を見ると、高校生以外の層で、来る前に比べて現在の方が「起きている」と回答する割合が増えている。特に小学生では、5~7ポイント程度増えている。

◇【子ども票】朝食の頻度



来る前と現在の変化を見ると、小学生で、来る前に比べて現在の方が「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合が1~4ポイント程度増えている。

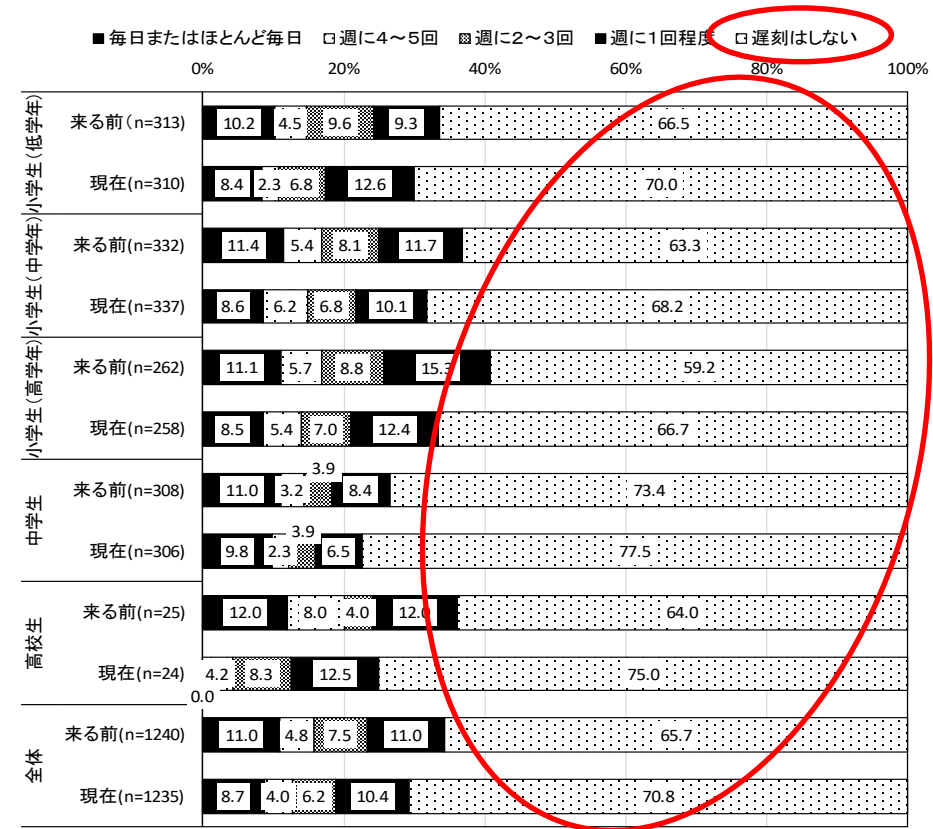
子どもたちの変化 ②教育環境（登校頻度と遅刻）

◇【子ども票】学校への登校頻度



来る前と現在の変化を見ると、中学生以外の層で、来る前に比べて現在の方が「毎日」学校へ登校する割合が高くなっている。

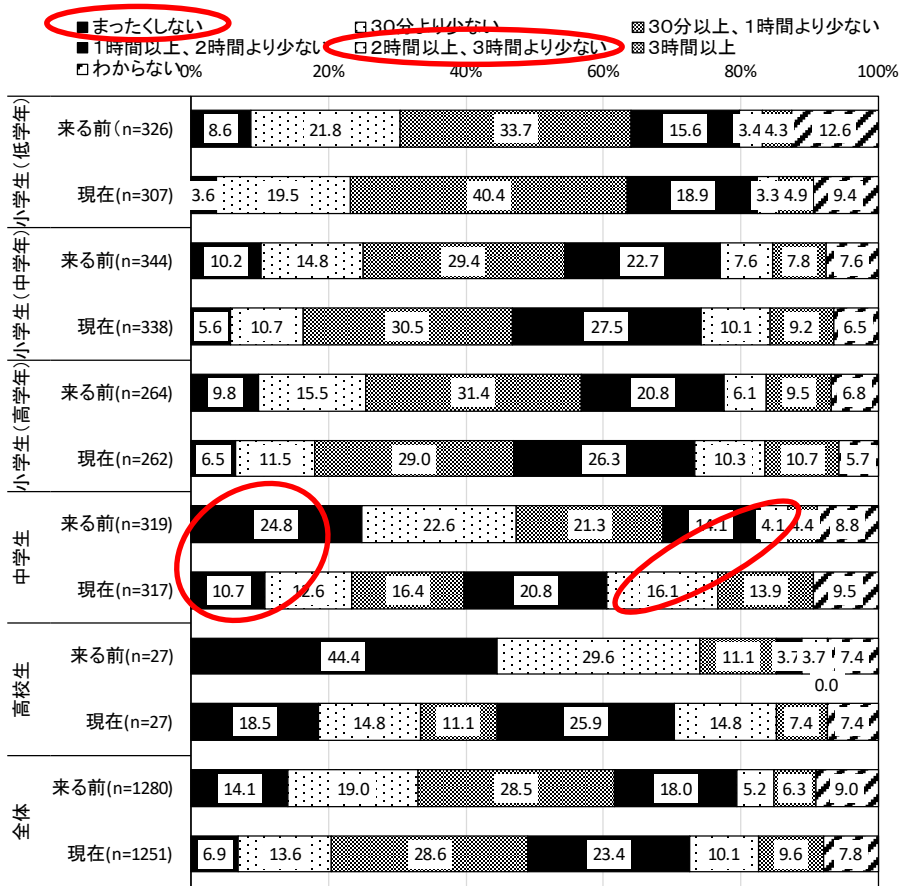
◇【子ども票】学校への遅刻頻度



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「遅刻はしない」の回答割合が高くなっている。

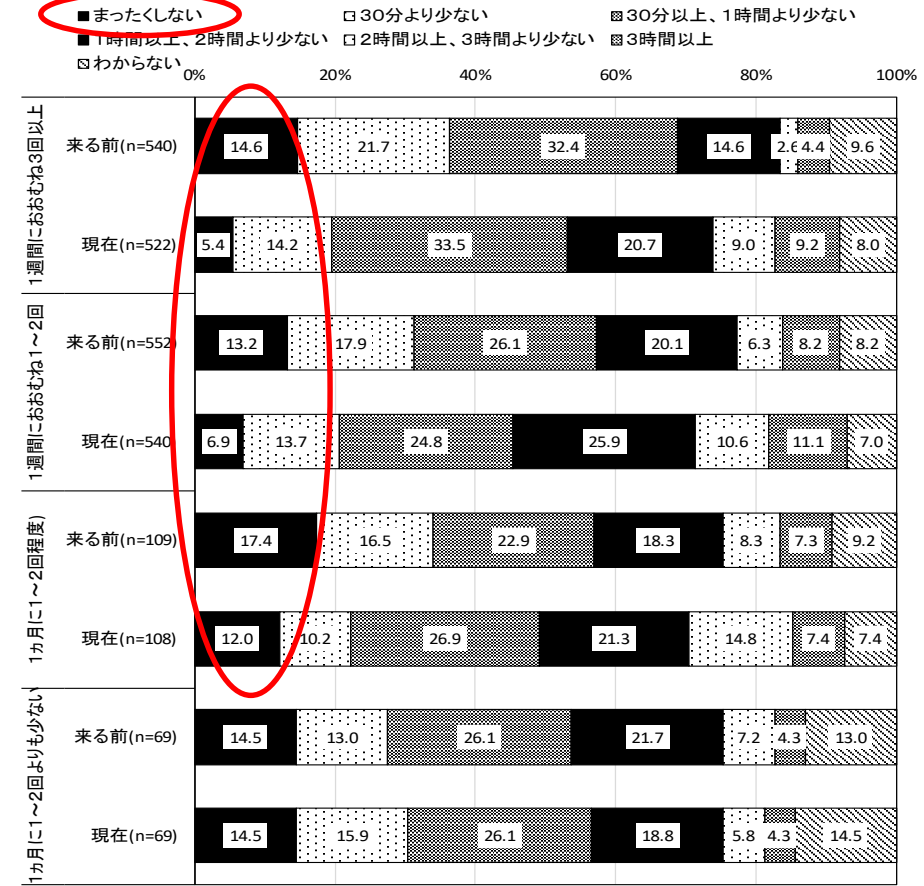
子どもたちの変化 ②教育環境（勉強時間）

◇【子ども票】学校がある日の授業時間以外での学習時間（学年別）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「まったくしない」の回答割合が低くなっている。また、中学生では「まったくしない」が14.1ポイント減少し、「2時間以上、3時間より少ない」が12.0ポイント増加している。

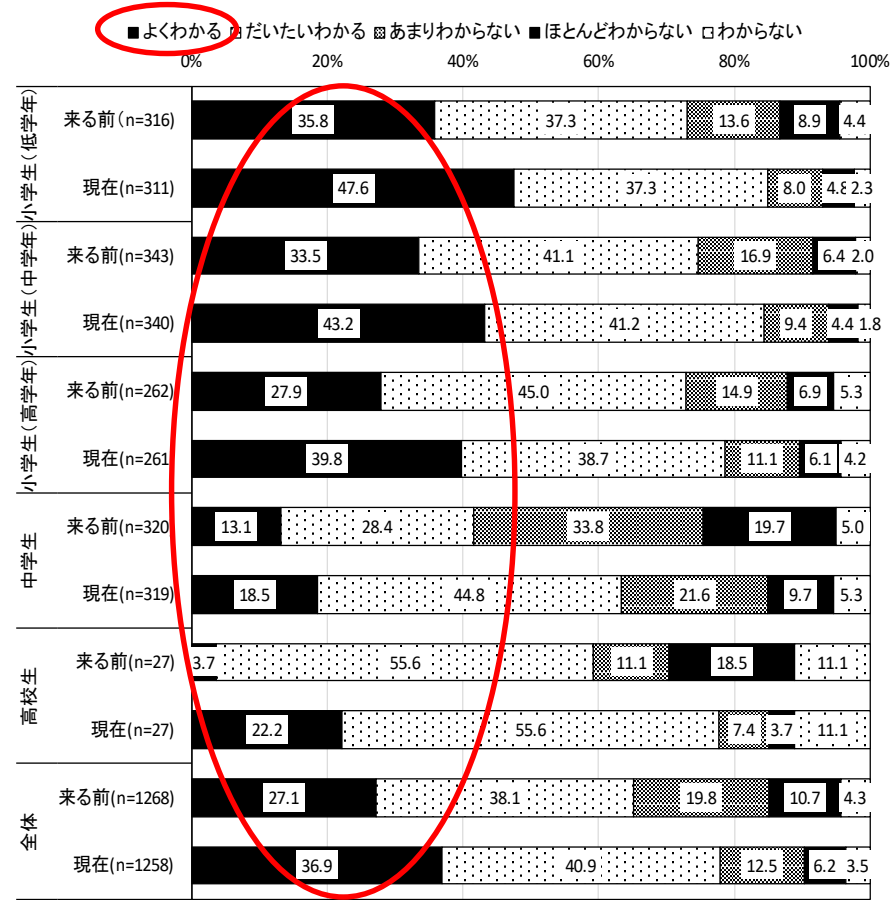
◇【子ども票】学校がある日の授業時間以外での学習時間（利用頻度別）



来る前と現在の変化を見ると、利用頻度が高いほど、来る前に比べて現在の方が「まったくしない」の割合が低下する傾向がみられる。一方、「1か月に1~2回より少ない」では、ほとんど変化が見られない。

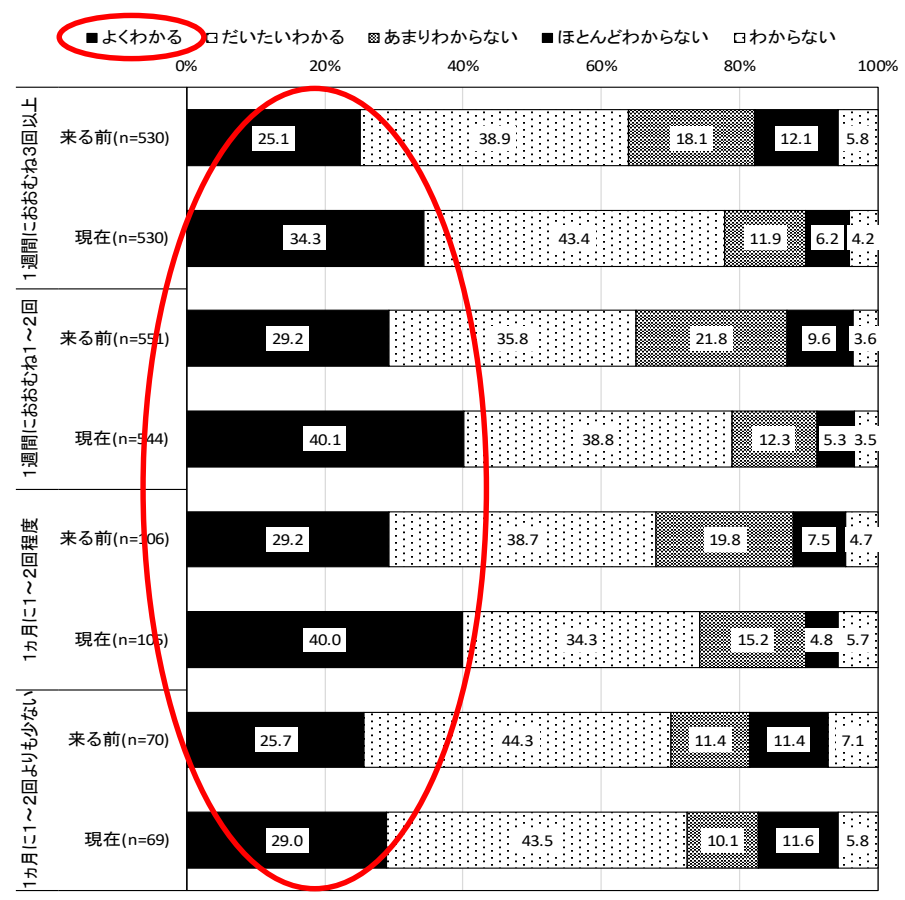
子どもたちの変化 ②教育環境（学習への気持ち）

◇【子ども票】学校の勉強がわかるか（学年別）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「よくわかる」の回答割合が高くなっており、学校の勉強を理解できているという意識が高まる傾向がみられる。

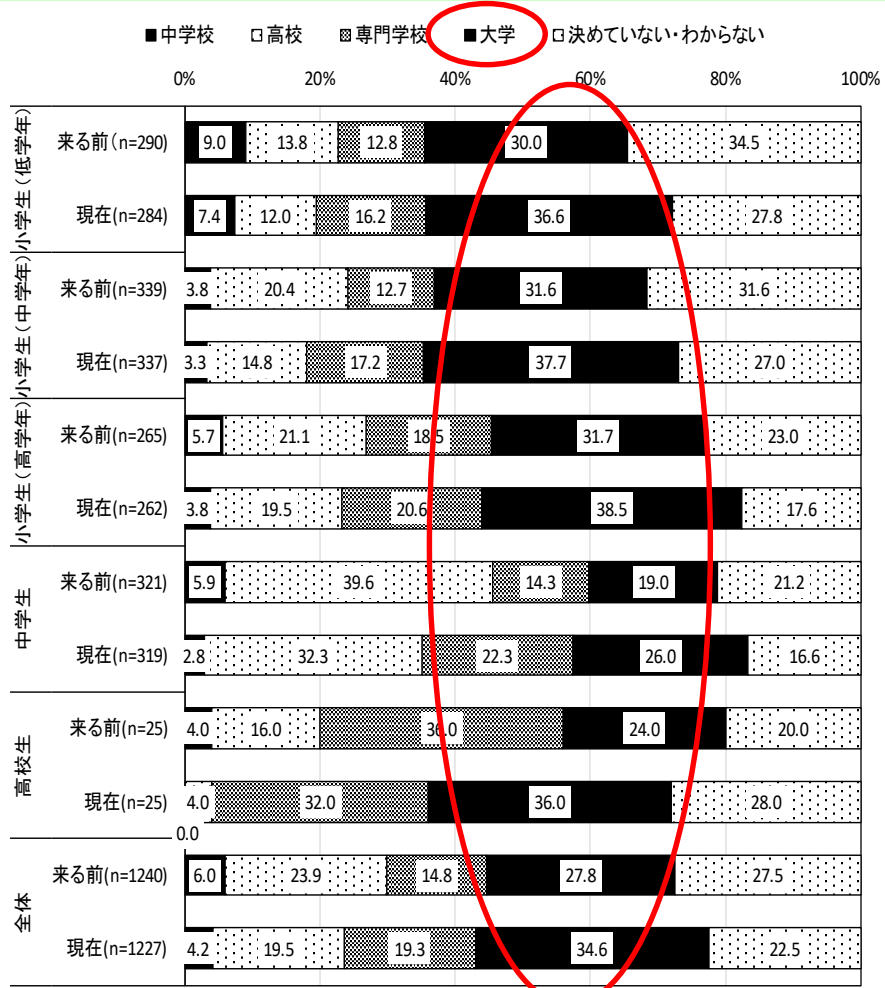
◇【子ども票】学校の勉強がわかるか（利用頻度別）



来る前と現在の変化を見ると、全ての群で、来る前に比べて現在の方が「よくわかる」の割合が高くなっている。

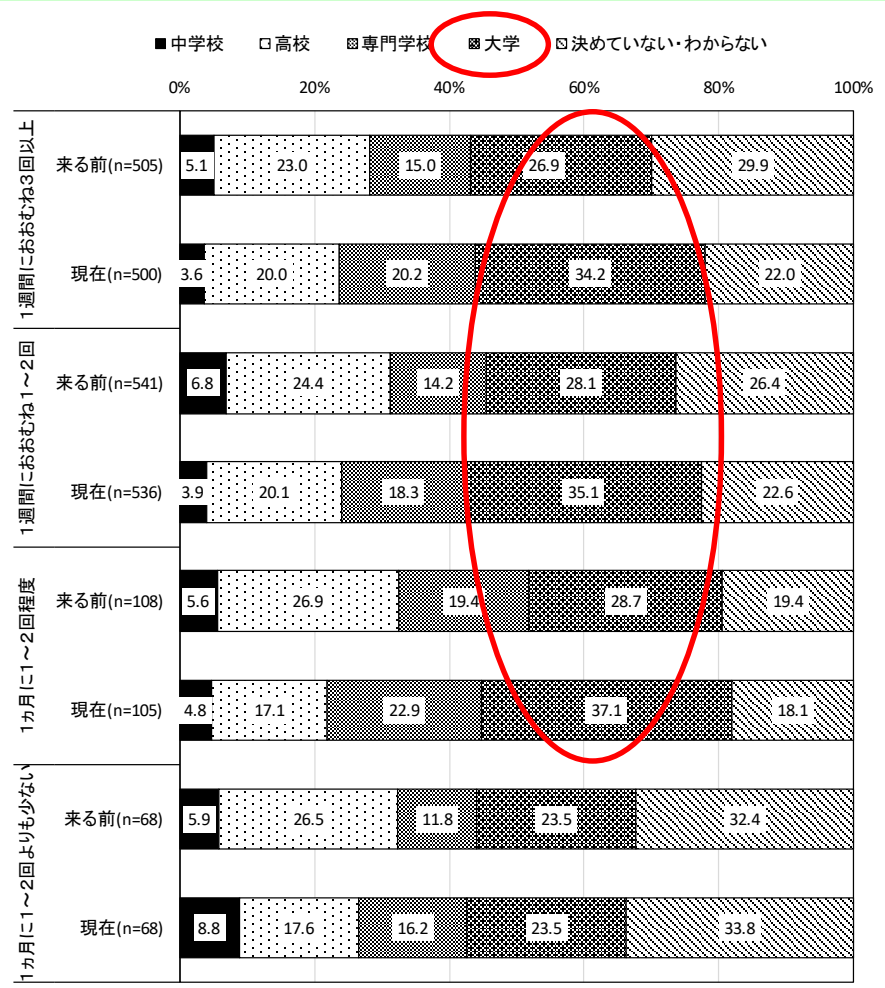
子どもたちの変化 ②教育環境（希望する進学先）

◇【子ども票】希望する進学先（学年別）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、「大学」の回答割合が来る前に比べて現在の方が高くなっている。

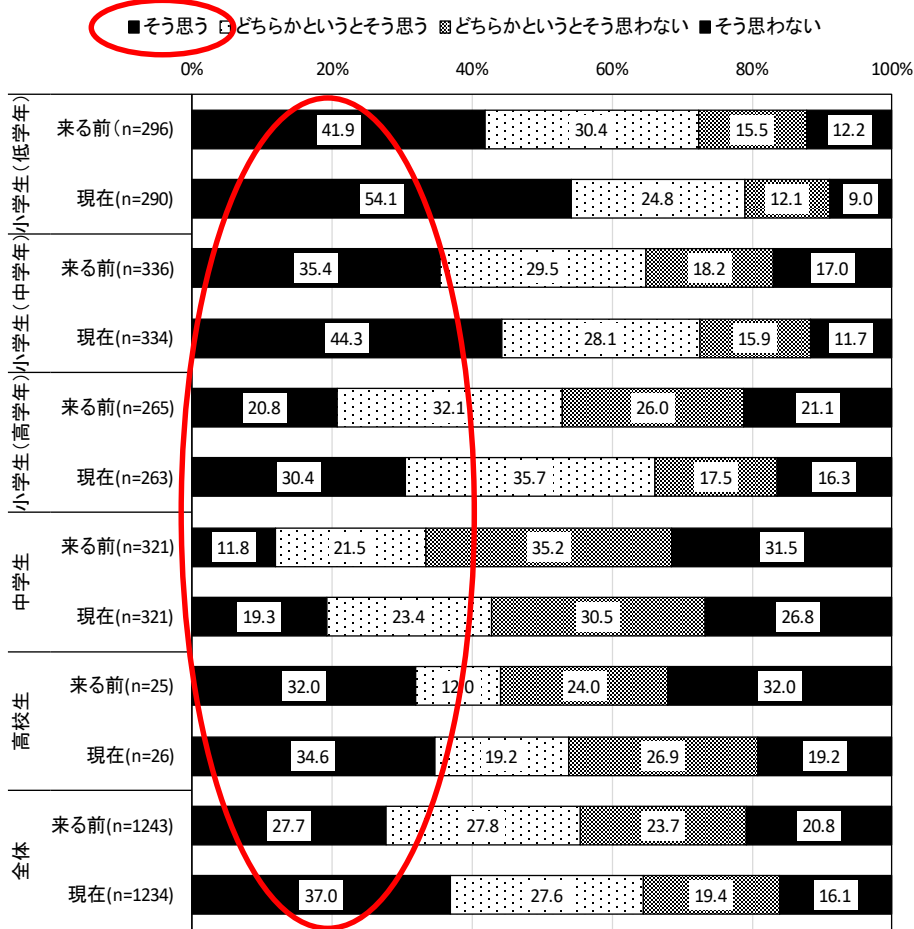
◇【子ども票】希望する進学先（利用頻度別）



来る前と現在の変化を見ると、「1か月に1~2回より少ない」という群を除くいずれの群も、来る前に比べて現在の方が「大学」と回答する割合が高くなっている。

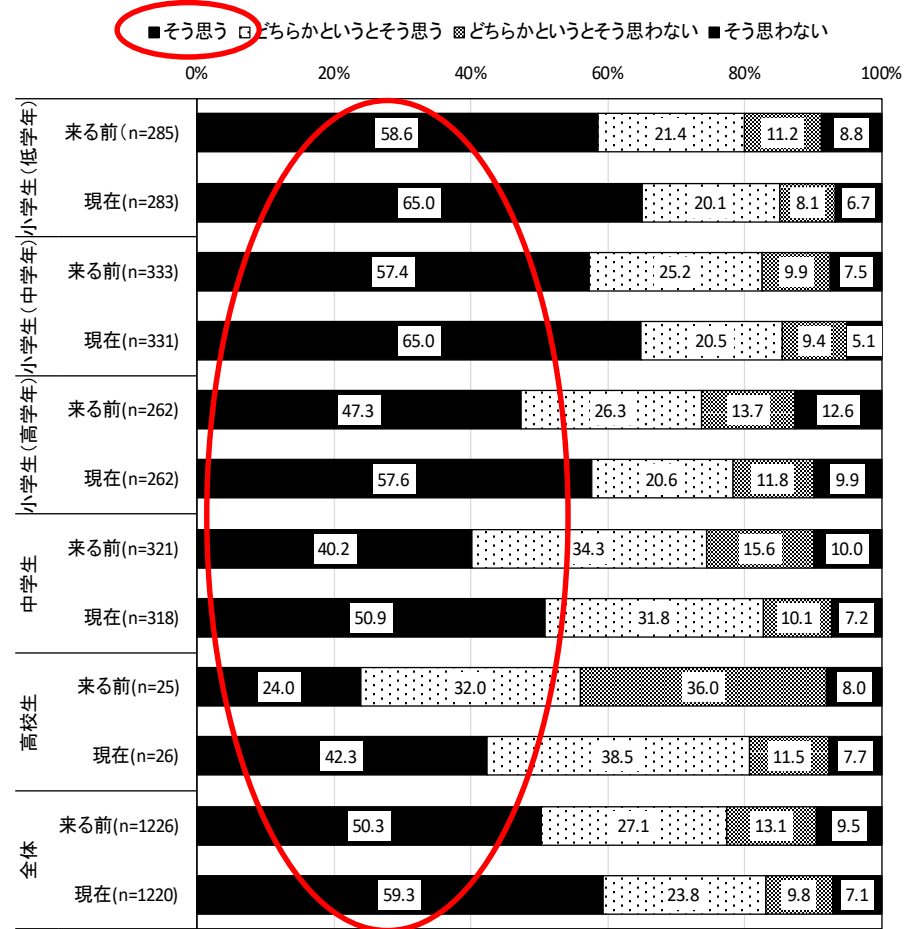
子どもたちの変化 ③社会環境（自己効力感）

◇【子ども票】自分への自信 （自分に自信がある）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「そう思う」の回答割合が高くなっており、自分に自信があるという意識が高くなっている。

◇【子ども票】頑張る気持ち （将来のためにも今頑張りたいと思う）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「そう思う」の回答割合が高くなっており、将来のためにも今頑張りたいという意識を持つ傾向にある。

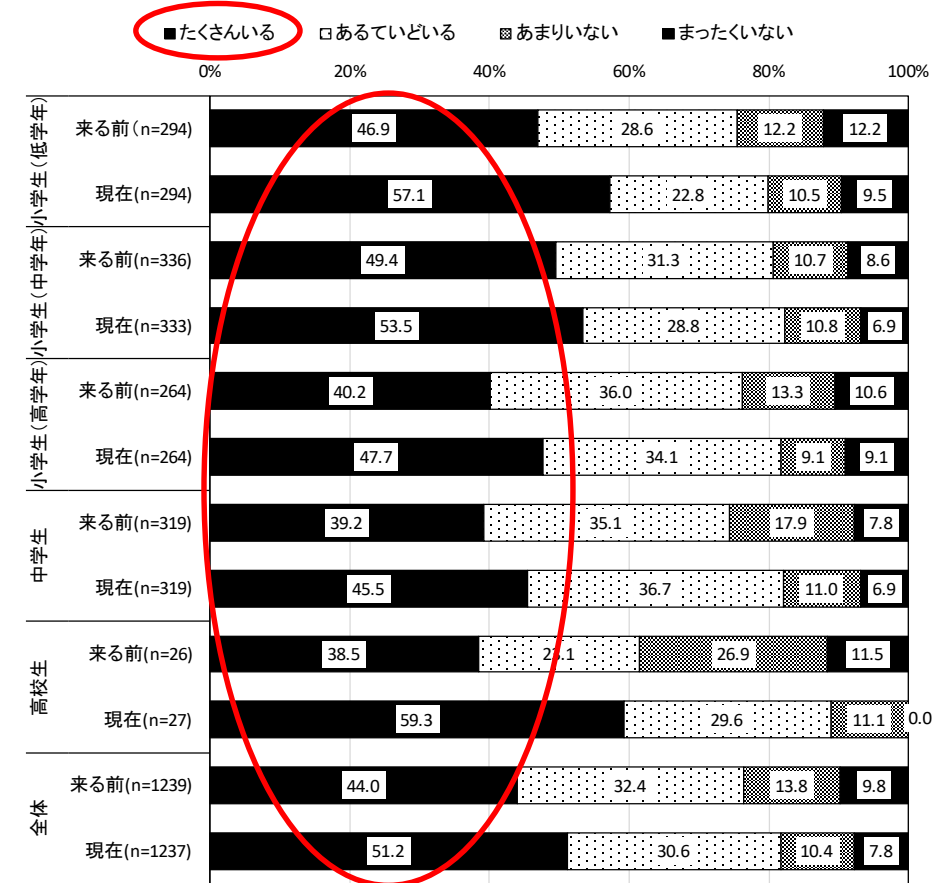
子どもたちの変化 ③社会環境（対人関係）

◇【子ども票】ほめてくれる人
 （勉強やスポーツをがんばったときにほめてくれる人）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「たくさんいる」の回答割合が高くなっており、がんばった時にほめてくれる人が増えている。

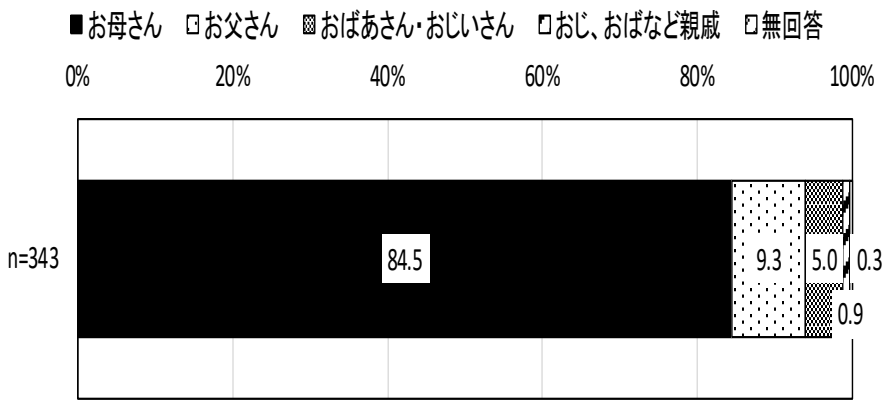
◇【子ども票】教えてくれる人
 （悩んでいるときにどうしたらよいか教えてくれる人）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「教えてくれる」の回答割合が高くなっており、悩んでいる時に教えてくれる人が増えている。

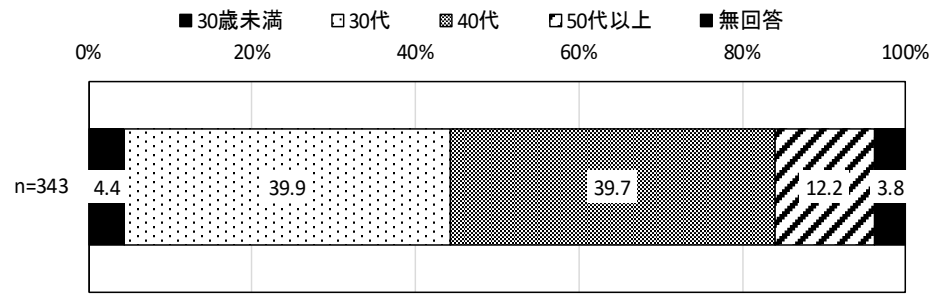
3 支援員に関する調査結果（保護者の回答）

◇回答者の続柄

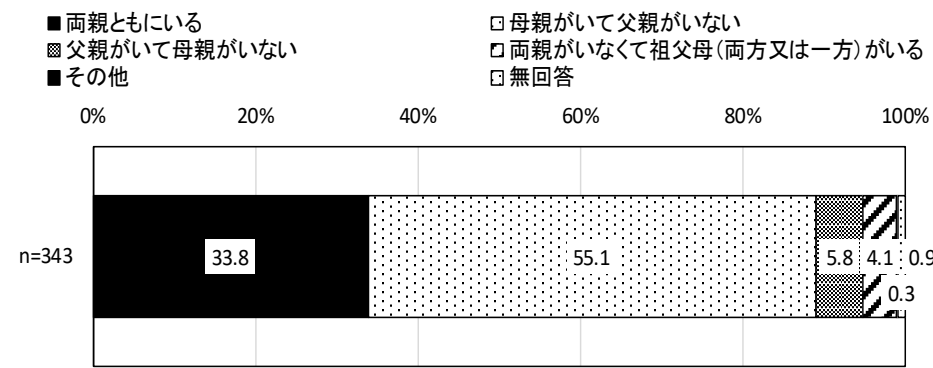


回答者の有効サンプルは343名
続柄は、
「お母さん」が290名で84.5%、
「お父さん」が32名で9.3%、
「おばあさん・おじいさん」が17名で5.0%、
「おじ、おばなど親戚」が3名で0.9% となっている。

◇回答者の年代・世帯構成



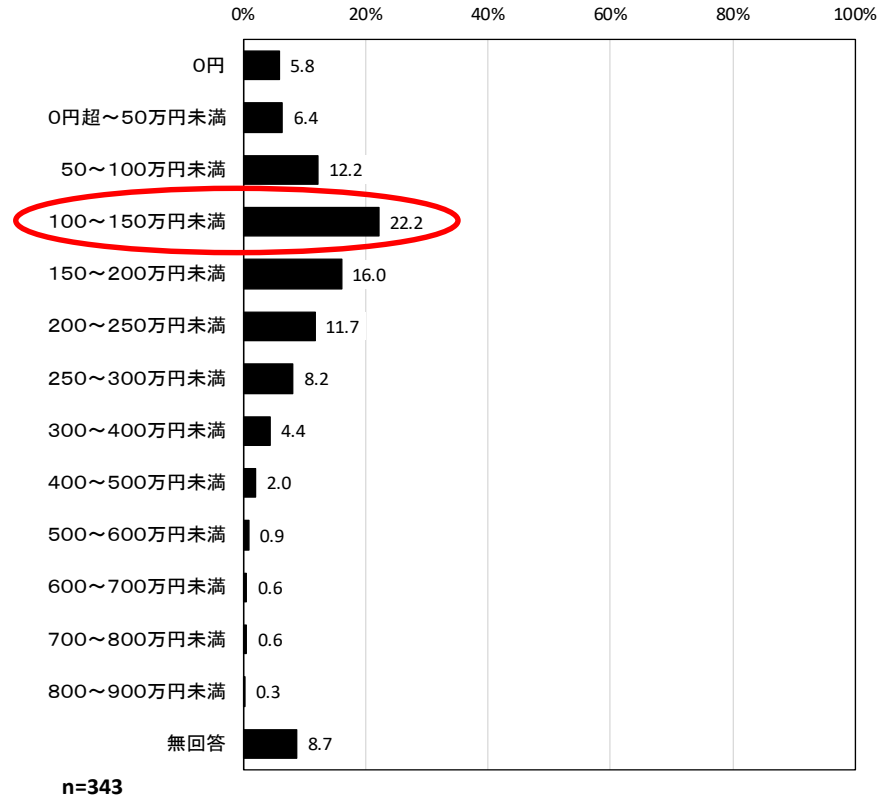
回答者の年代は、
「30代」が39.9%、
「40代」が39.7%、
「50代以上」が12.2% となっている。



世帯構成は、
「母親がいて父親がいない」が55.1%、
「両親ともにいる」が33.8%、
「父親がいて母親がいない」が5.8% となっている。

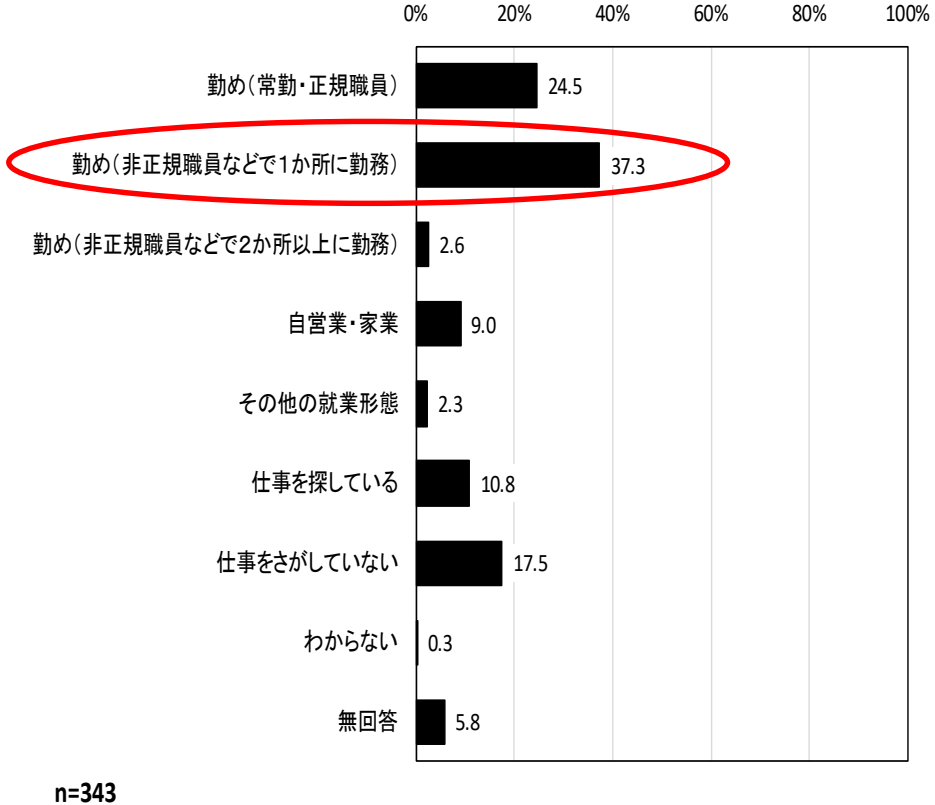
■ 経済状況等

◇ 回答者の前年(2017年)世帯収入



前年の世帯収入の合計額は、「100~150万円未満」が22.2%でもっとも回答割合が高く、次いで、「150~200万円未満」が16.0%、「50~100万円未満」が12.2%となっている。

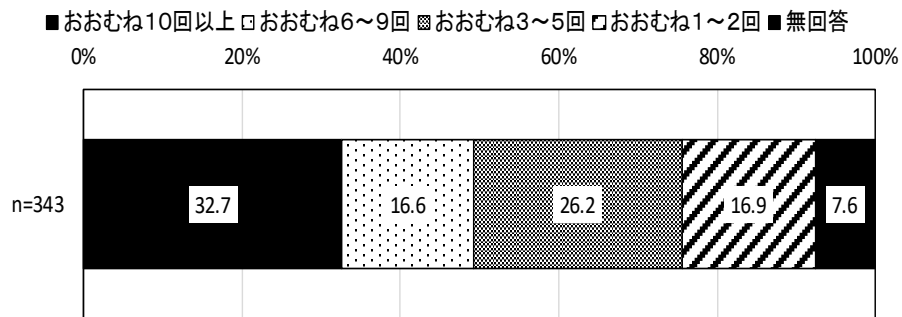
◇ 回答者の就労状況



就労状況は、「勤め(非正規職員などで1か所に勤務)」が37.3%でもっとも回答割合が高く、次いで「勤め(常勤・正規職員)」が24.5%、「仕事をさがしていない」が17.5%となっている。

■ 支援に関すること

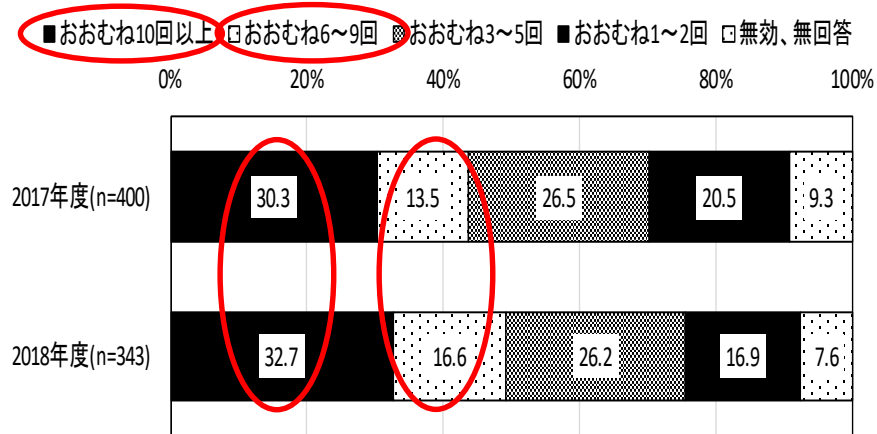
◇ 支援員に会った回数



支援員に会った回数は、「おおむね10回以上」が32.7%でもっとも回答割合が高く、次いで「おおむね3~5回」が26.2%、「おおむね1~2回」が16.9%となっている。

※本項目は、期間を設定していない。このため、支援員に会った回数が多い場合であっても、短い期間に頻繁に会ったのか、たまにしか会っていないが支援員との交流期間が長い場合回数が増え重なったのかなど、一概には言えない。

◇ 2017年度と2018年度の支援員に会った回数

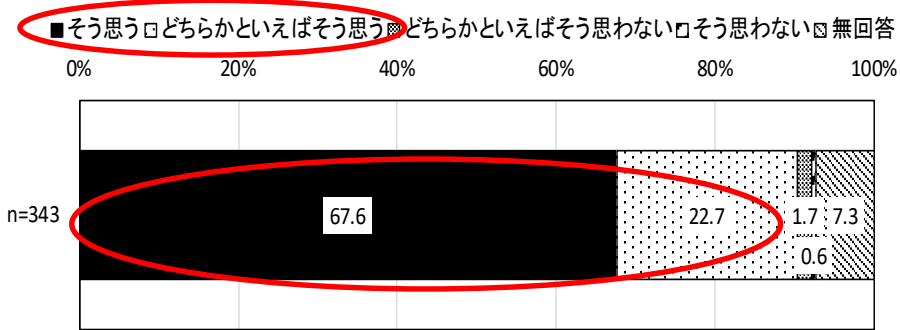


2017年度に比べると2018年度では、「おおむね10回以上」が2.4ポイント、「おおむね6~9回以上」が3.1ポイント増加しており、回数が増加している傾向がみられる。

■ 支援に関すること

◇ 支援員に会った感想

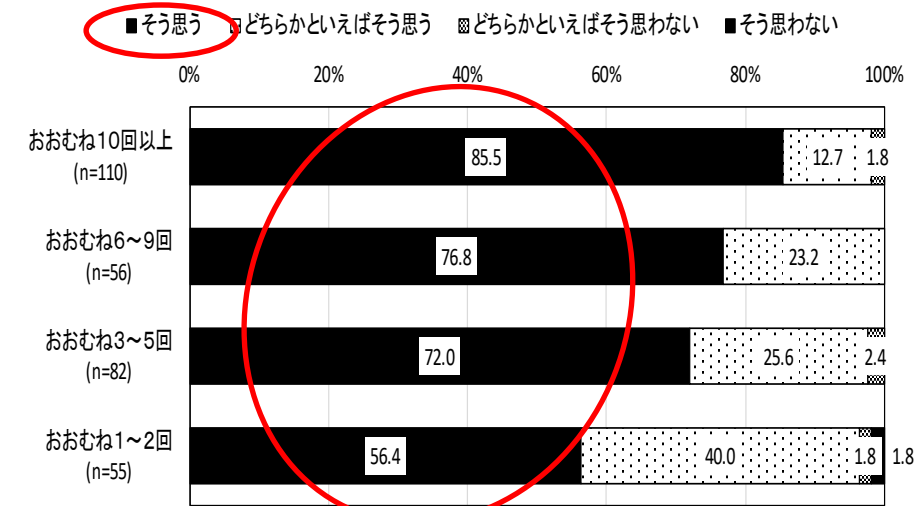
(支援員と会うようになって良かったと思うか)



「そう思う」「どちらかというとそう思う」を合わせると90.3%となり、肯定的な評価を得ている。

◇ 支援員に会った感想 (支援回数別)

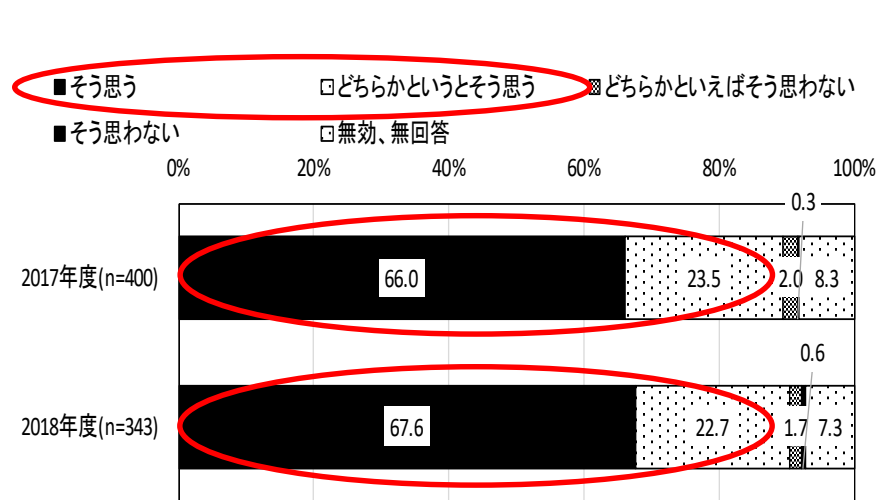
(支援員と会うようになって良かったと思うか)



支援員に会った回数が増加するほど、「そう思う」という回答の割合が高くなっている。

◇ 2017年度と2018年度の支援員の感想

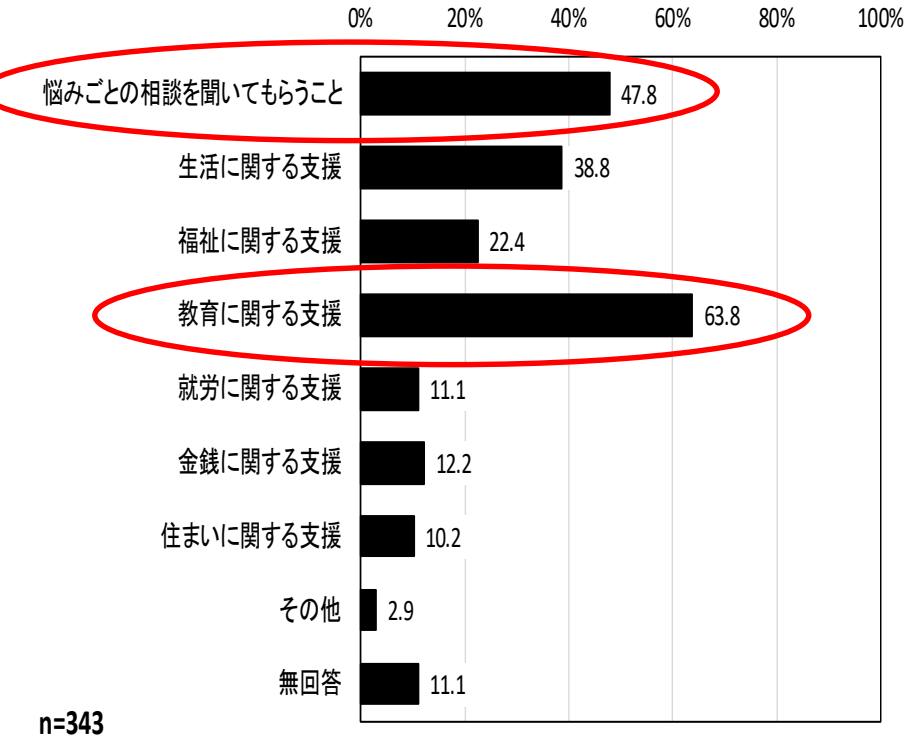
(支援員と会うようになって良かったと思うか)



2017年度、2018年度とも、「そう思う」、「どちらかというとそう思う」が約9割を占めており、おおむね同様の傾向となっている。

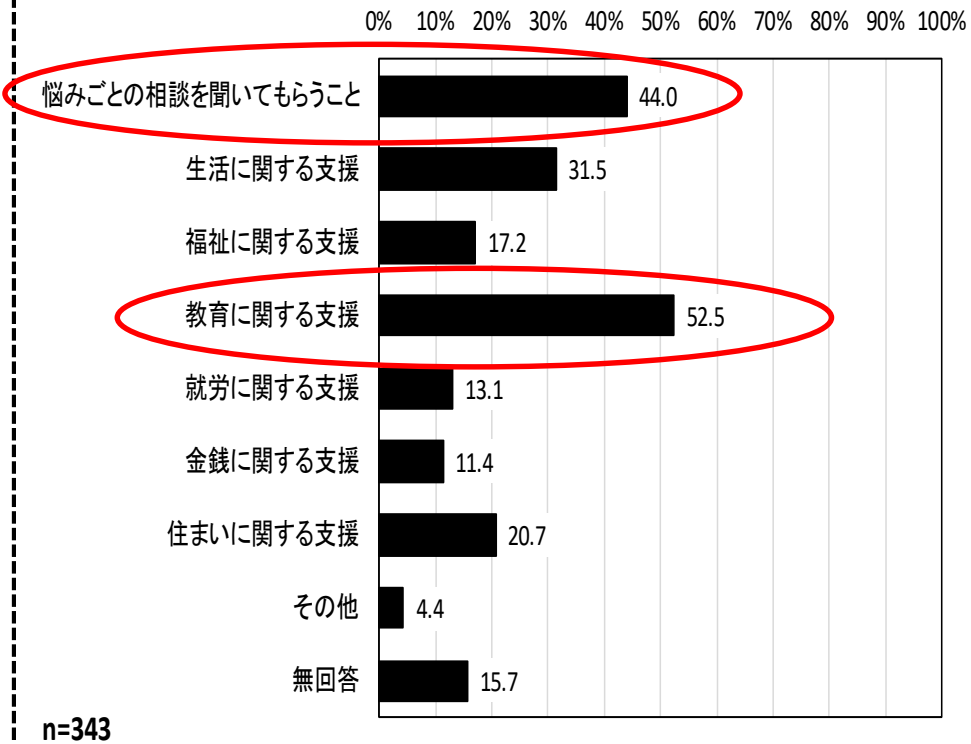
■ 支援に関すること

◇ 役に立ったサポート



役に立ったサポートについて、「教育に関する支援」や「悩みごとの相談を聞いてもらうこと」という回答割合が高かった。

◇ 今後受けてたいサポート

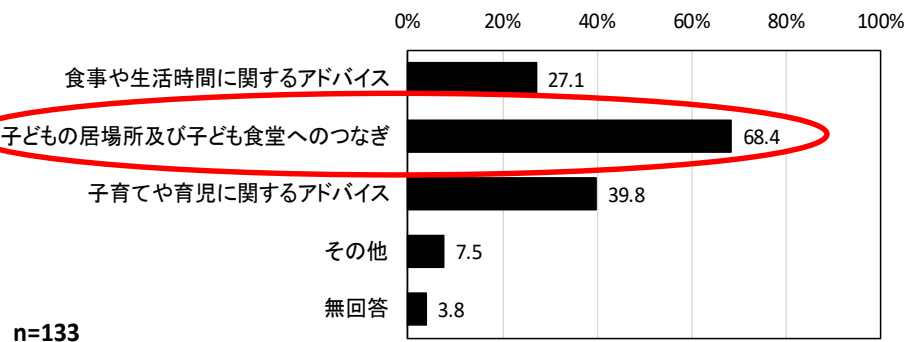


今後受けてたいサポートについて、「教育に関する支援」や「悩みごとの相談を聞いてもらうこと」という回答割合が高かった。

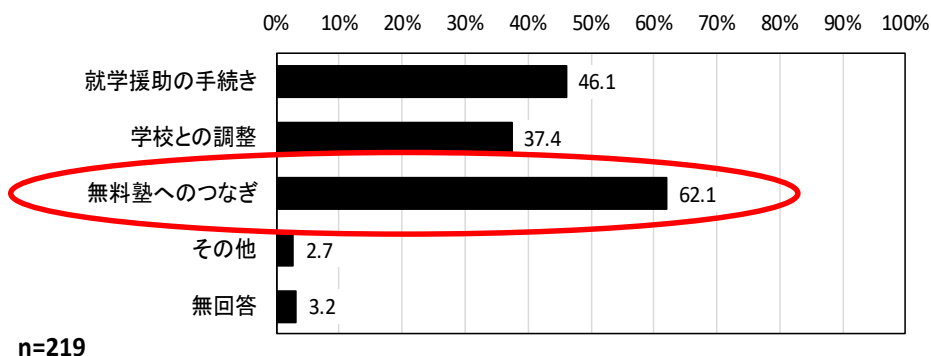
■ 支援員に関すること（支援員から受けたサポート）

◇ 生活に関する支援

◇ 教育に関する支援



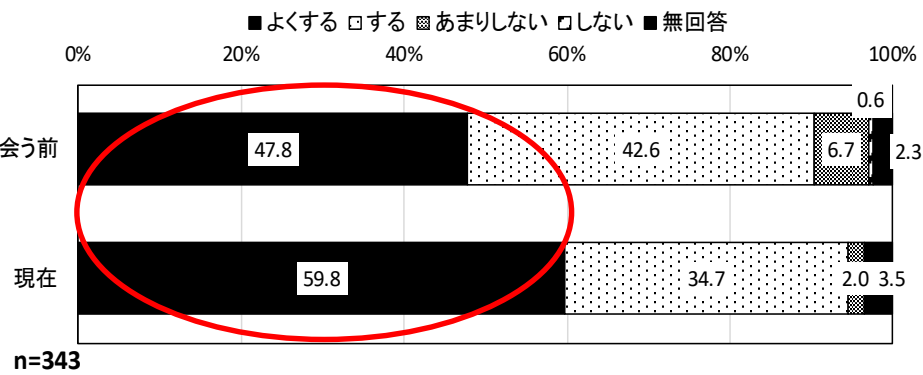
生活に関する支援については、「子どもの居場所及び子ども食堂へのつながり」が68.4%でもっとも回答割合が高く、次いで「子育てや育児に関するアドバイス」が39.8%、「食事や生活時間に関するアドバイス」が27.1%となっている。



教育に関する支援については、「無料塾へのつながり」が62.1%でもっとも回答割合が高く、次いで「就学援助の手続き」が46.1%、「学校との調整」が37.4%となっている。

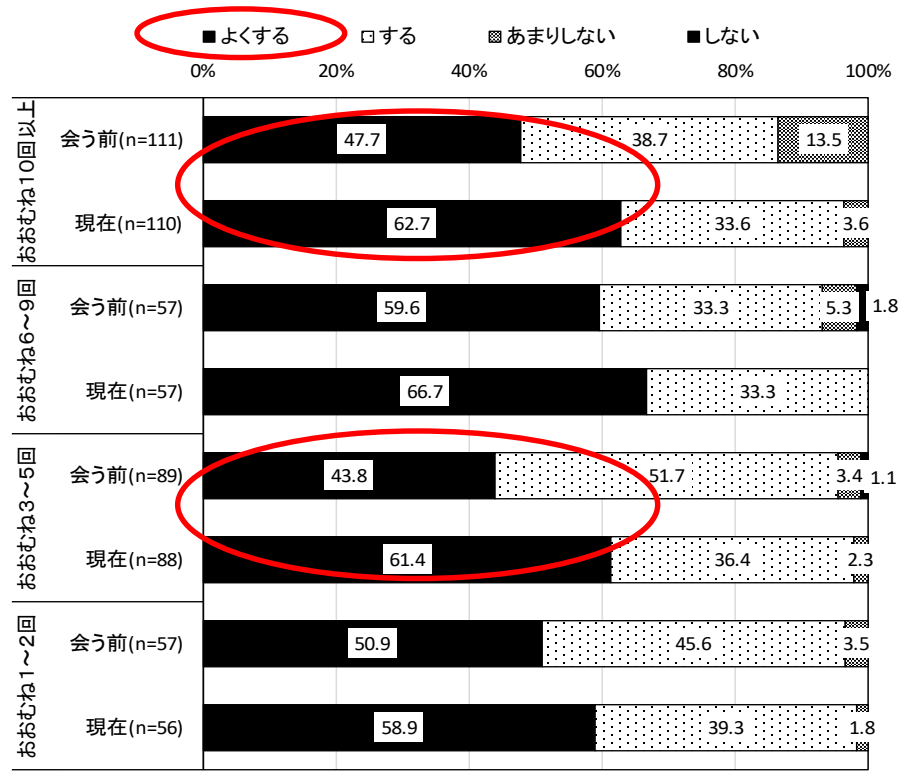
■保護者の変化（子どもとの関係について）

◇子どもとの会話



会う前と現在の変化を見ると、「よくする」が、12ポイント増加している。

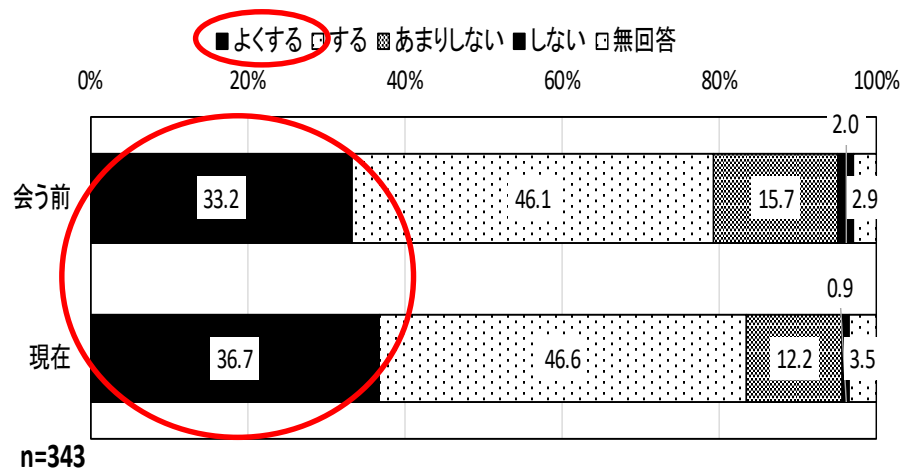
◇子どもとの会話（支援回数別）



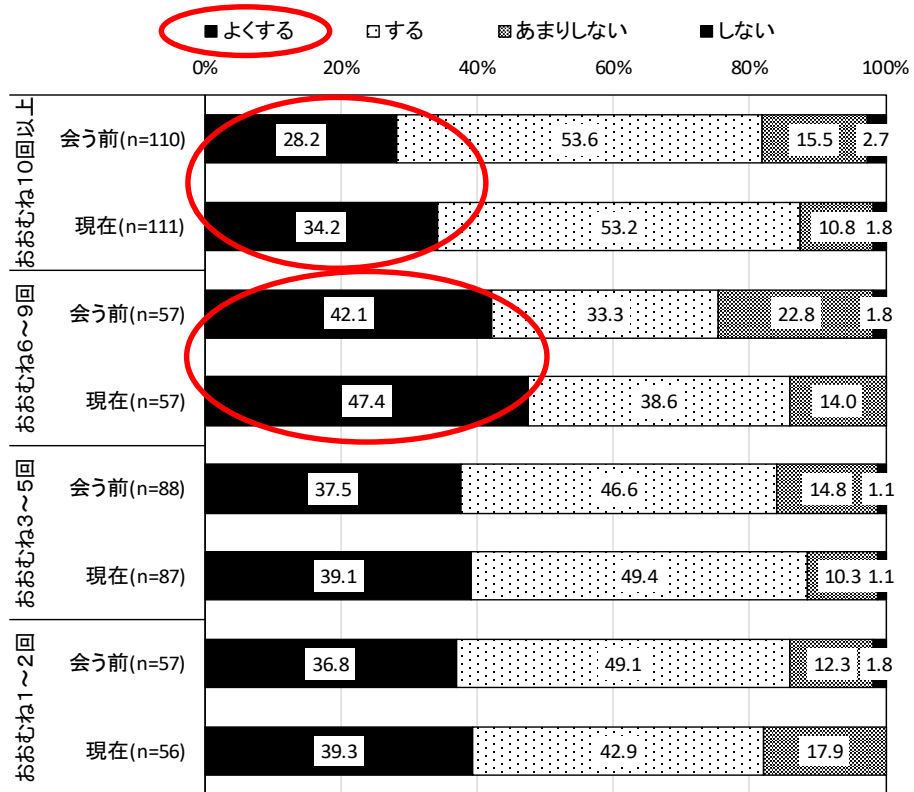
支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「よくする」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で15ポイント、「おおむね3~5回」で17.6ポイント となっている。

■保護者の変化（子どもとの関係について）

◇子どもと十分時間を過ごしているか ◇子どもと十分時間を過ごしているか（支援回数別）



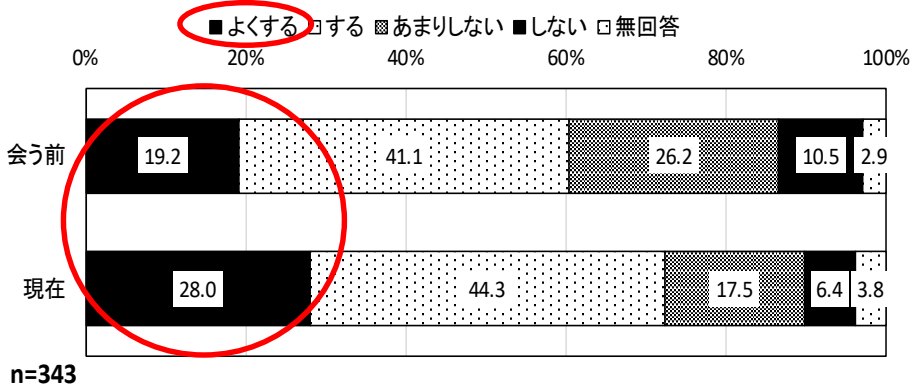
会う前と現在の変化を見ると、「よくする」(子どもと十分時間を過ごしている)が3.5ポイント増加している。



支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「よくする」(子どもと十分時間を過ごしている)の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で6ポイント、「おおむね6~9回」で5.3ポイント となっている。

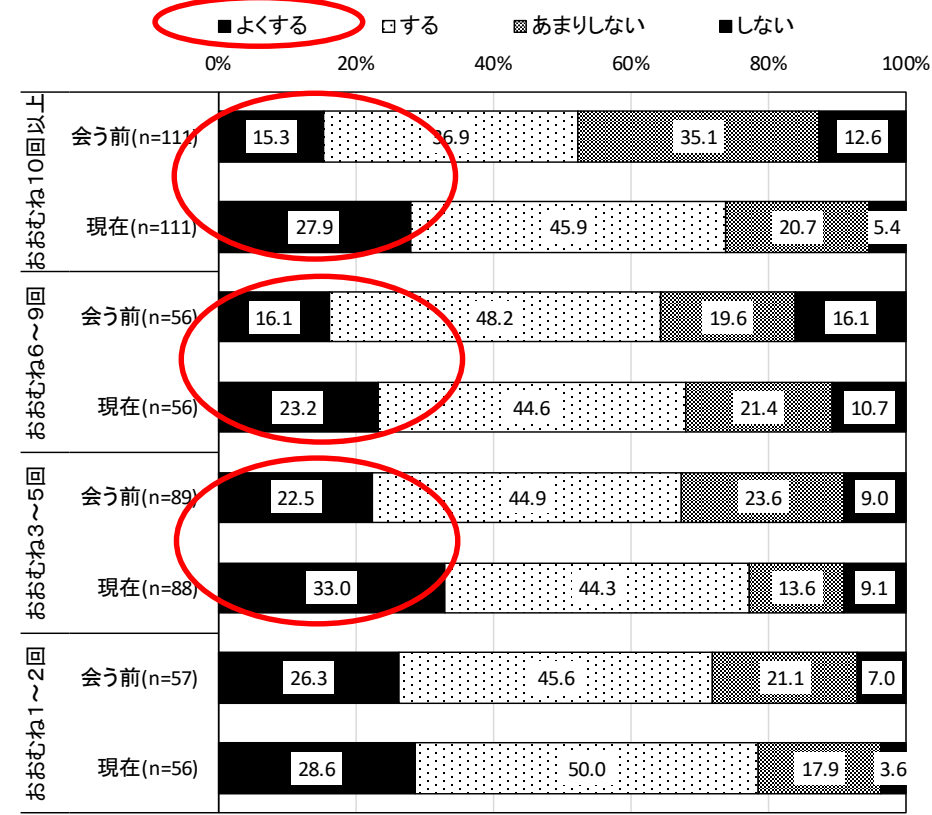
■保護者の変化（子どもとの関係について）

◇将来の夢について子どもと話し合っているか



会う前と現在の変化を見ると、将来の夢についての話を「よくする」が、8.8ポイント増加している。

◇将来の夢について子どもと話し合っているか（支援回数別）

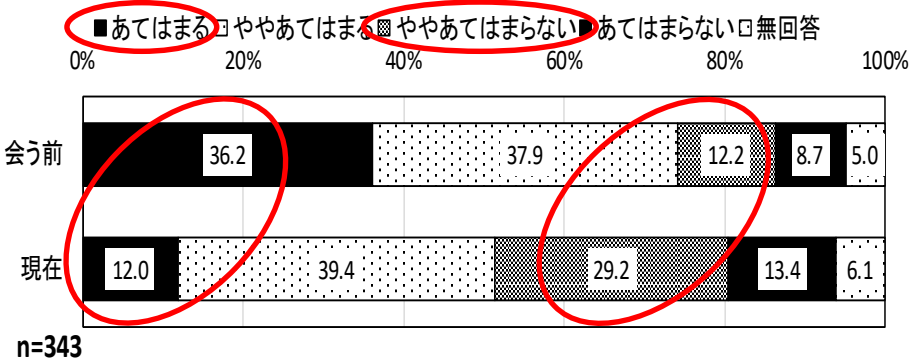


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で将来の夢についての話を「よくする」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で12.6ポイント、「おおむね6～9回」で7.1ポイント、「おおむね3～5回」で10.5ポイント となっている。

■保護者の変化（子育てについて）

◇子育てについて

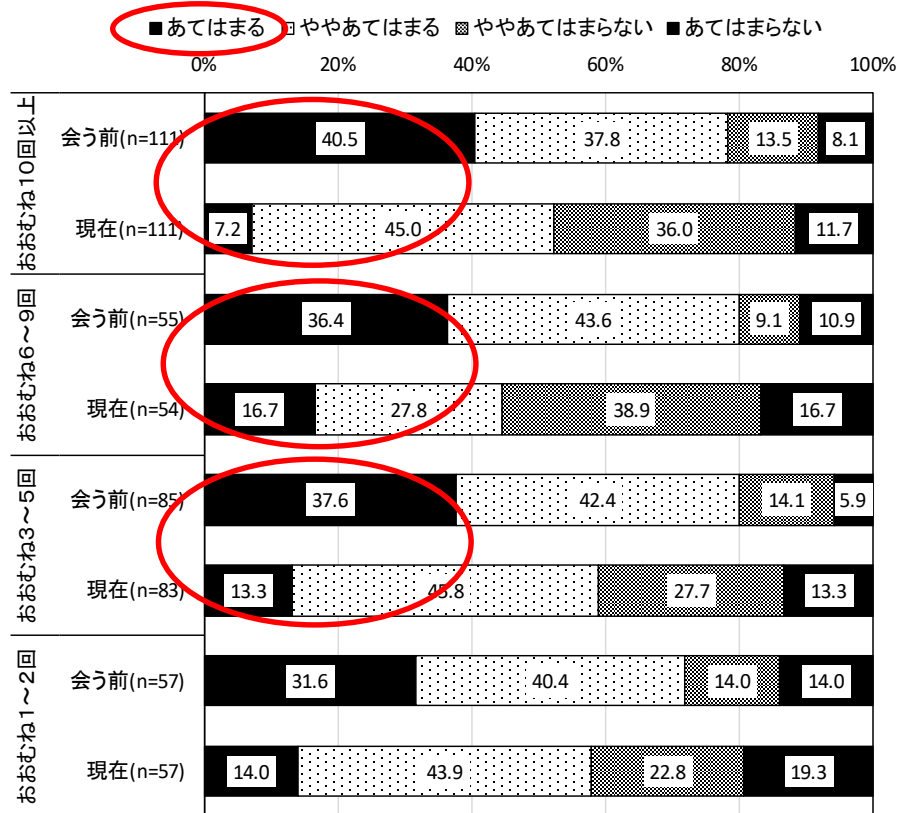
（不安やイライラの感情を子どもに向けたことがある）



会う前と現在の変化を見ると、「あてはまる」が、24.2ポイント減少しており、「ややあてはまらない」が17ポイント増加している。

◇子育てについて（支援回数別）

（不安やイライラの感情を子どもに向けたことがある）

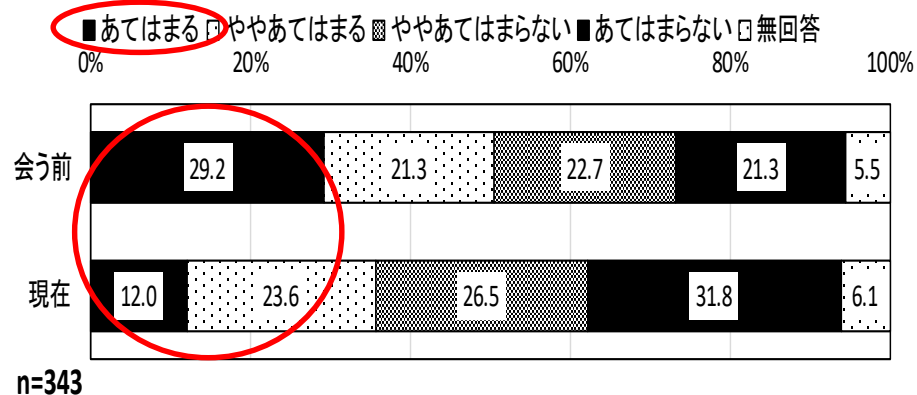


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「あてはまる」の割合が大幅に低くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」でマイナス33.3ポイント、「おおむね6~9回」でマイナス19.7ポイント、「おおむね3~5回」でマイナス24.3ポイント となっている。

■保護者の変化（子育てについて）

◇子育てについて

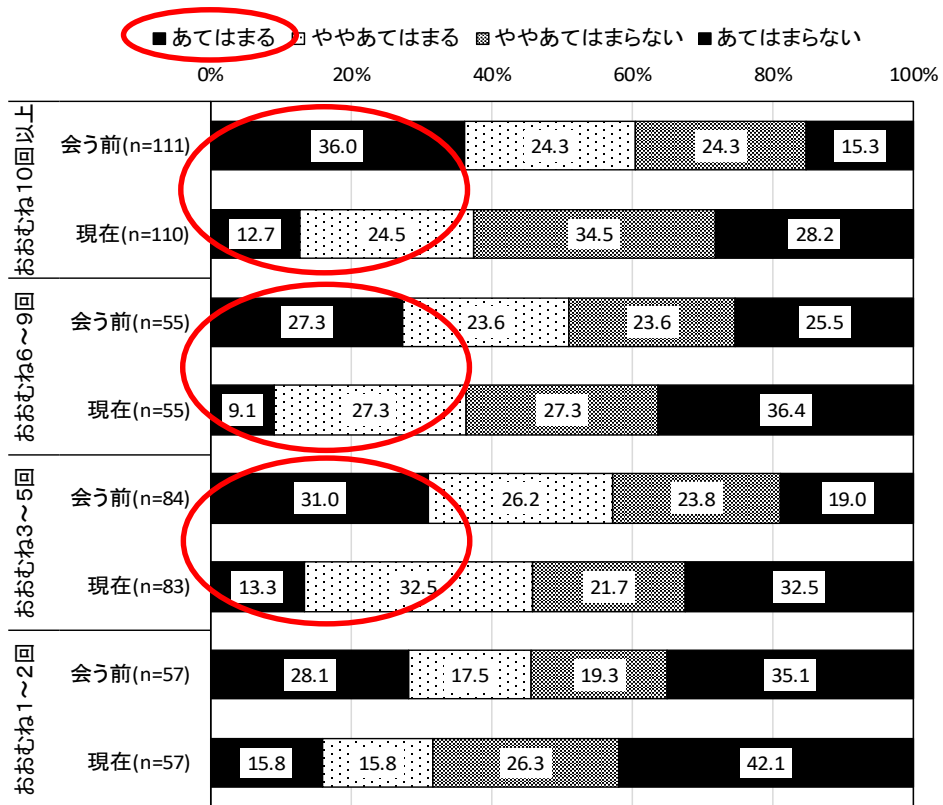
（自分一人で育てているという圧迫感を感じる）



会う前と現在の変化を見ると、「あてはまる」が、17.2ポイント減少している。

◇子育てについて（支援回数別）

（自分一人で育てているという圧迫感を感じる）

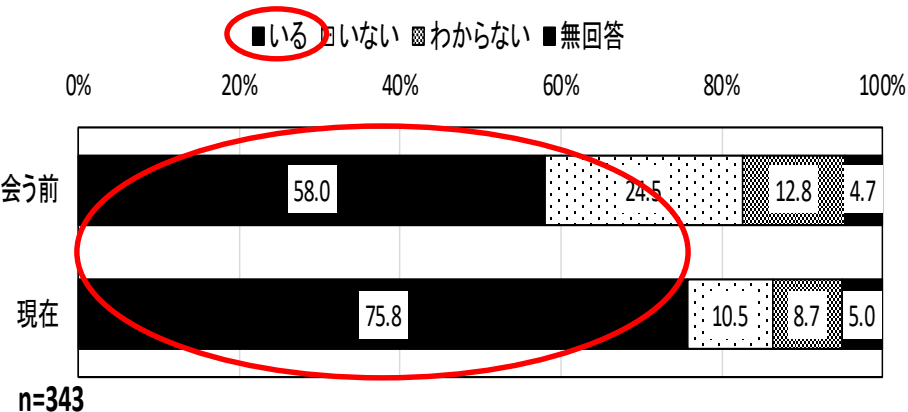


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「あてはまる」の割合が低くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」でマイナス23.3ポイント、「おおむね6~9回」でマイナス18.2ポイント、「おおむね3~5回」でマイナス17.7ポイント となっている。

■ 保護者の変化（対人関係について）

◇ 対人関係について

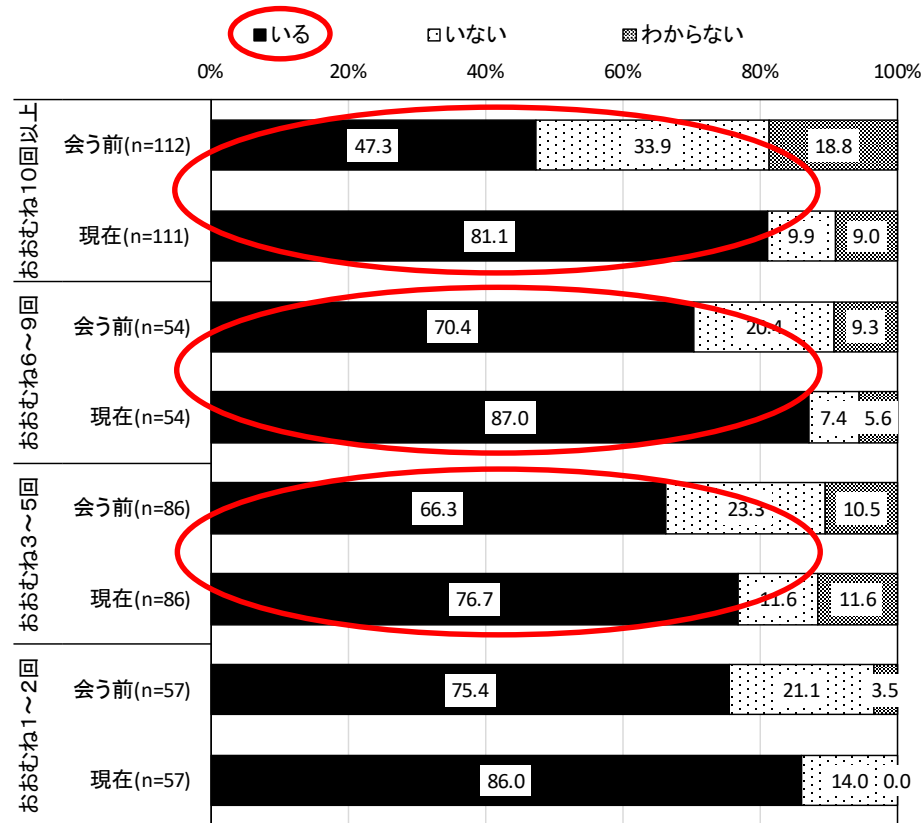
（心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人）



会う前と現在の変化を見ると、「いる」が、17.8ポイント増加している。

◇ 対人関係について（支援回数別）

（心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人）

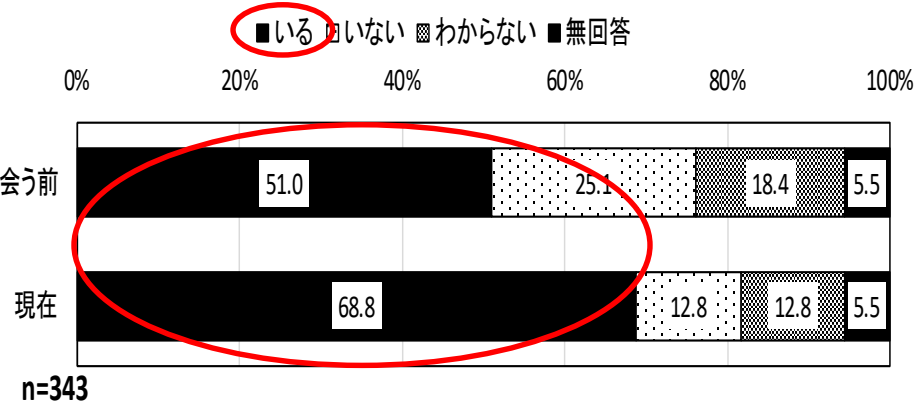


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「いる」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で33.8ポイント、「おおむね6~9回」で16.6ポイント、「おおむね3~5回」で10.4ポイント となっている。

■ 保護者の変化（対人関係について）

◇ 対人関係について

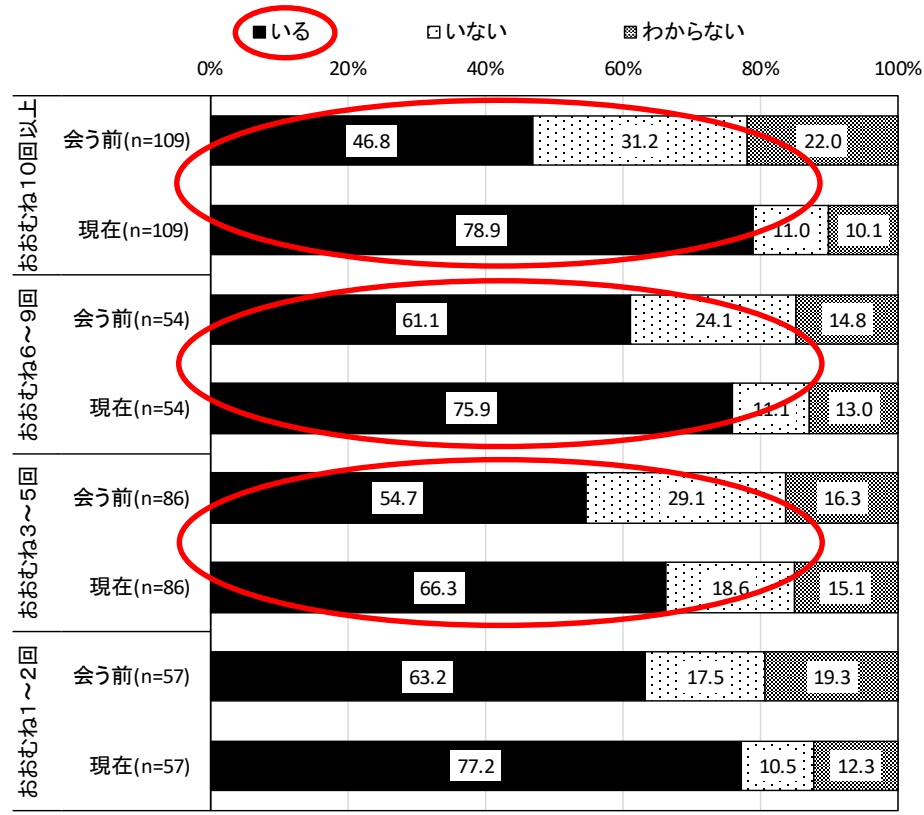
（あなたの気持ちを察して思いやってくれる人）



会う前と現在の変化を見ると、「いる」が、17.8ポイント増加している。

◇ 対人関係について（支援回数別）

（あなたの気持ちを察して思いやってくれる人）

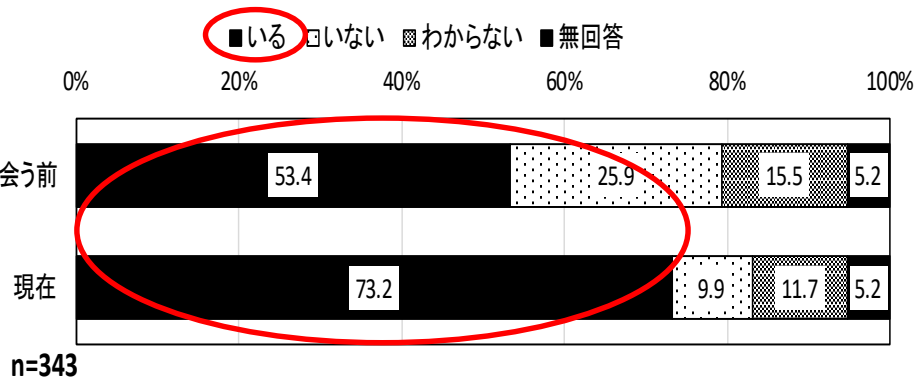


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「いる」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で32.1ポイント、「おおむね6~9回」で14.8ポイント、「おおむね3~5回」で11.6ポイント となっている。

■保護者の変化（対人関係について）

◇対人関係について

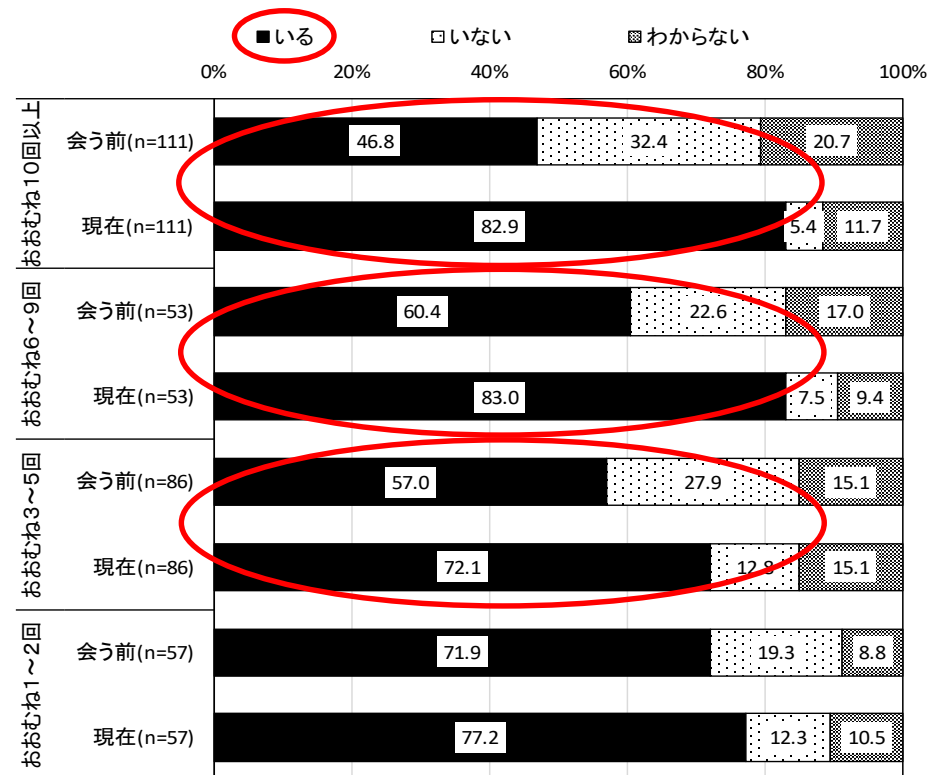
（子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人）



会う前と現在の変化を見ると、「いる」が、19.8ポイント増加している。

◇対人関係について（支援回数別）

（子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人）

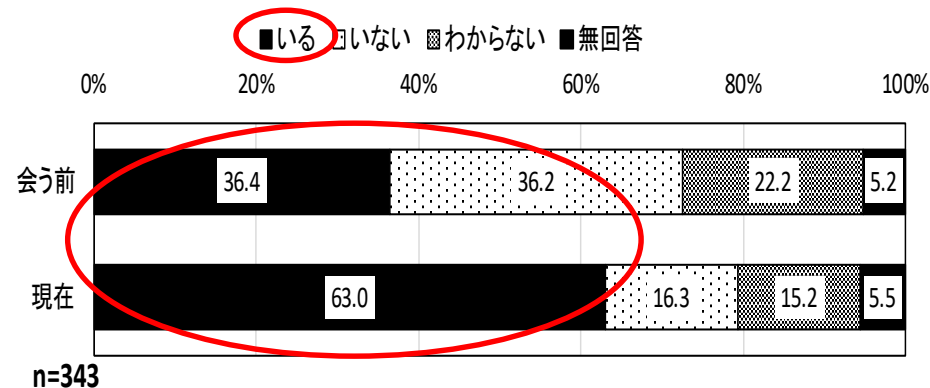


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「いる」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で36.1ポイント、「おおむね6~9回」で22.6ポイント、「おおむね3~5回」で15.1ポイント となっている。

■保護者の変化（対人関係について）

◇対人関係について

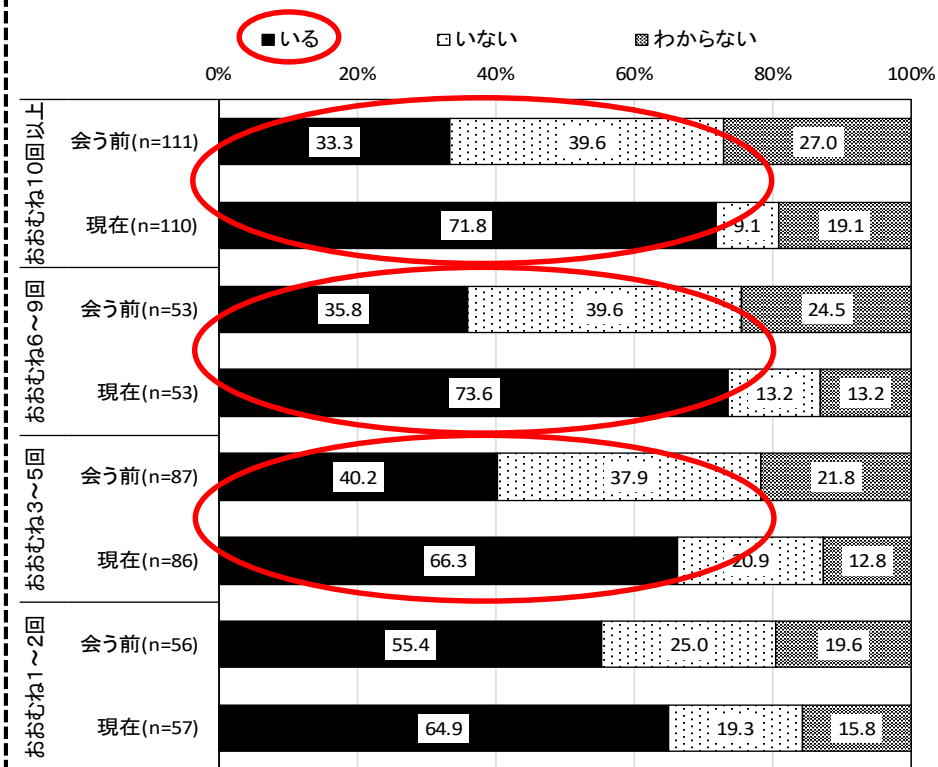
（子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人）



会う前と現在の変化を見ると、「いる」が、26.6ポイント増加している。

◇対人関係について（支援回数別）

（子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人）

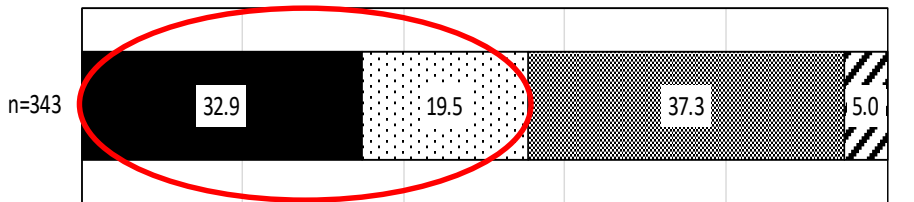


支援員に会った回数別に会う前と現在の変化を見ると、全ての群で「いる」の割合が高くなっており、会う前と現在とのポイント差は、「おおむね10回以上」で38.5ポイント、「おおむね6~9回」で37.8ポイント、「おおむね3~5回」で26.1ポイント となっている。

■ 保護者から見た子どもの変化

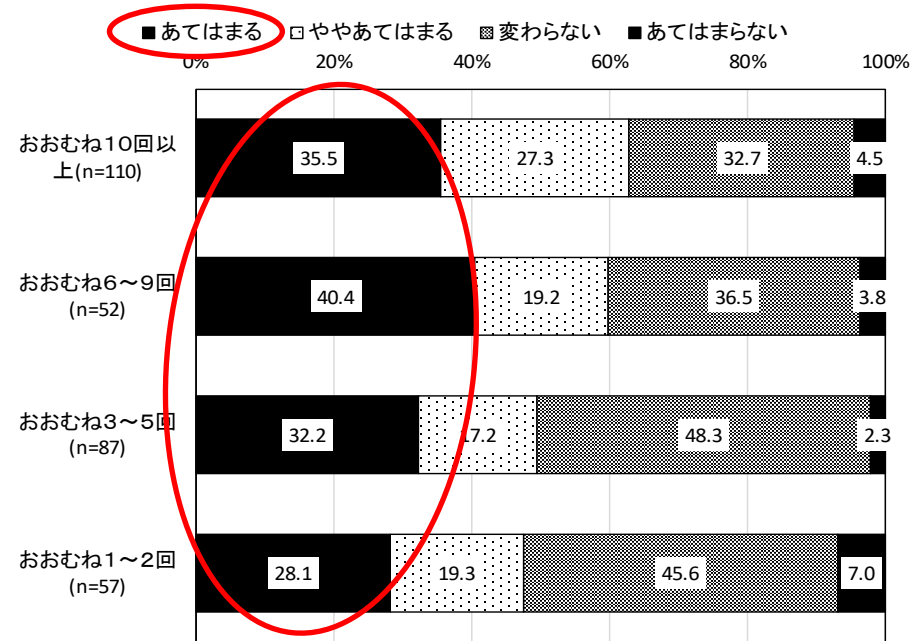
(支援員サービスを利用するようになってからの子どもの変化)

◇ 子どもの変化 (朝食を食べる)



保護者が支援員サービスを利用することになってからの子どもの変化を見ると、「朝食を食べる」ことについて、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が約5割となっている。

◇ 子どもの変化 (朝食を食べる) (支援回数別)

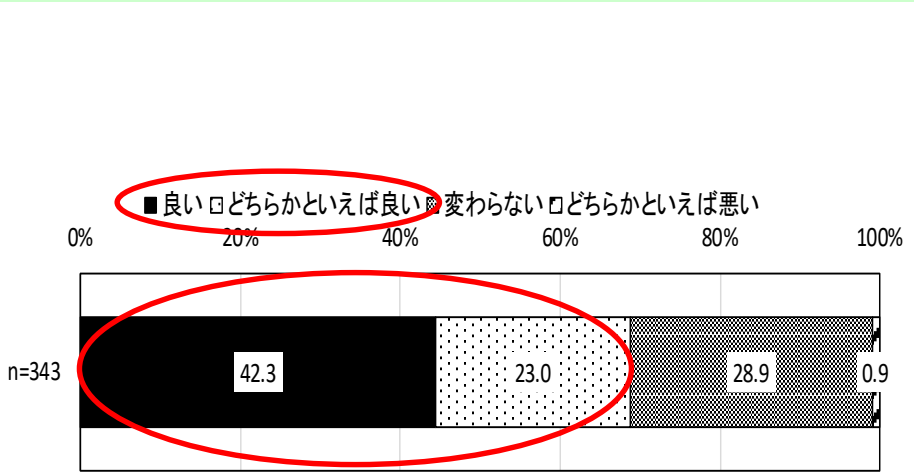


支援員に会った回数別に見た子どもの変化を見ると、「朝食を食べる」ことについて、支援員に会った回数が多いほうが、「あてはまる」の割合が高くなっている。

■ 保護者から見た子どもの変化

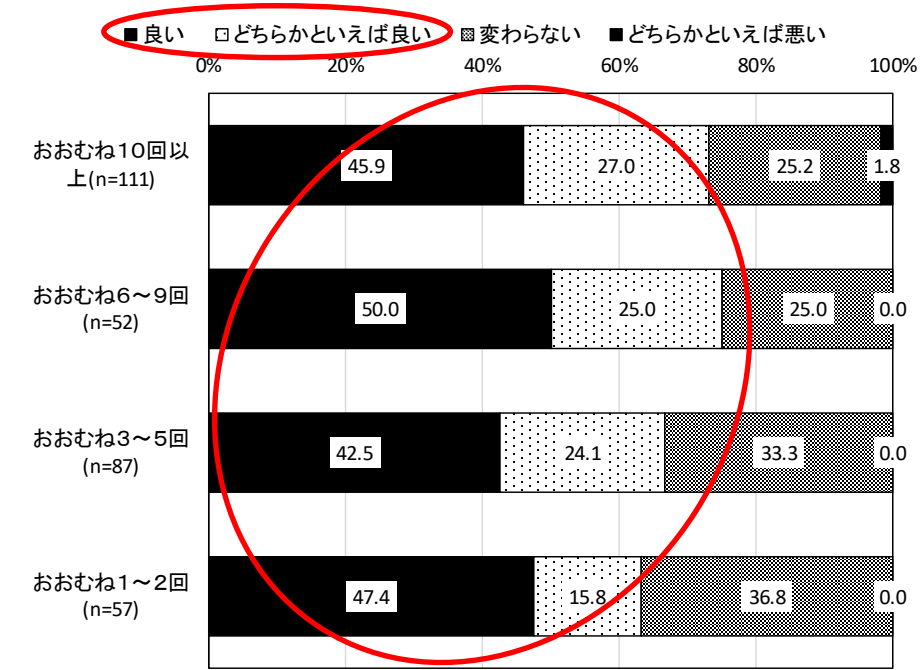
(支援員サービスを利用するようになってからの子どもの変化)

◇ 子どもの変化 (健康状態)



保護者が支援員サービスを利用することになってからの子どもの変化を見ると、「健康状態」について、「良い」「どちらかといえば良い」の合計が約6割となっている。

◇ 子どもの変化 (健康状態) (支援回数別)

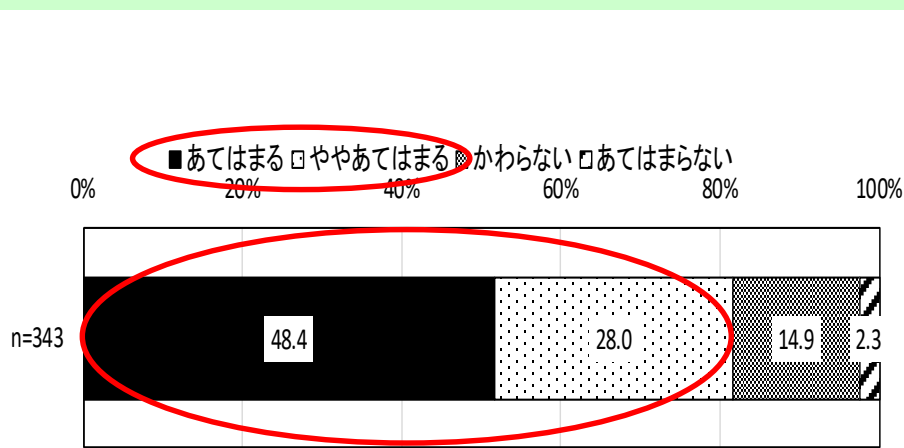


支援員に会った回数別に見た子どもの変化を見ると、「健康状態」について、支援員に会った回数が多いほうが、「良い」「どちらかといえば良い」の合計の割合が高くなっている。

■ 保護者から見た子どもの変化

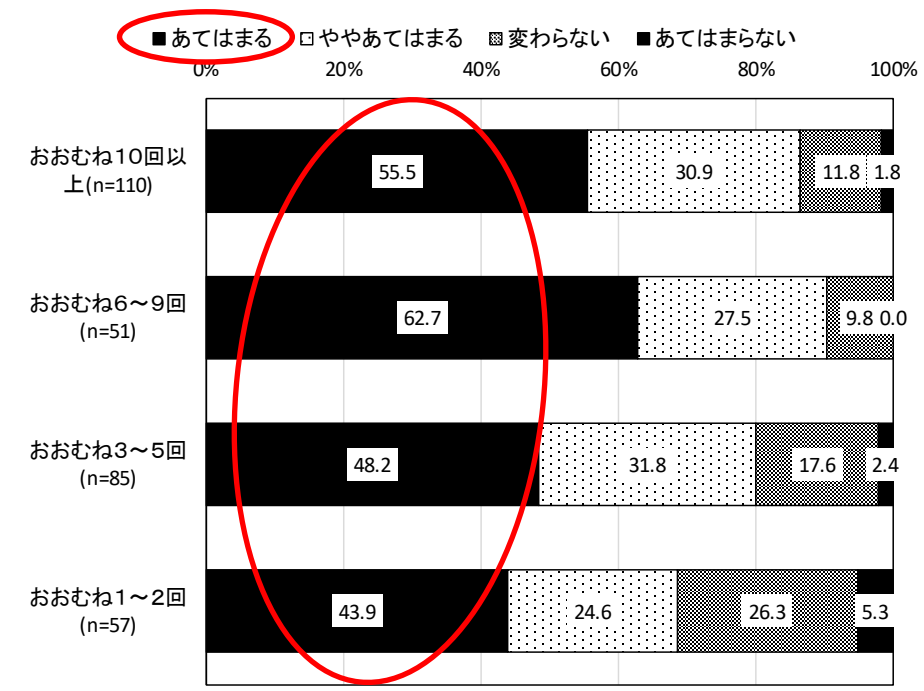
(支援員サービスを利用するようになってからの子どもの変化)

◇ 子どもの変化 (勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる)



保護者が支援員サービスを利用することになってからの子どもの変化を見ると、「勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる」について、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が約7割となっている。

◇ 子どもの変化 (勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる)
(支援回数別)



支援員に会った回数別に見た子どもの変化を見ると、「勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる」について、支援員に会った回数が多いほうが、「あてはまる」の割合が高くなっている。

■ 調査結果の考察（総合考察）

1 事業効果及び課題について

(1) 子供の居場所

- 居場所の利用前後における変化をみると、保護者においては、「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」「子どもを育てるために我慢している」「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」について「あてはまる」と回答した割合がいずれも減少するなど、子どもとの関係に前向きな変化がみられた。

⇒ 子どもが居場所を利用することで、保護者に対しても効果があることが明らかになったと言える。

また、子どもにおいても、学習時間や学習理解度、支えてくれる人の数、自己効力感について、ポジティブな変化がみられた。

⇒ 居場所支援は子どもがおかれた経済状況によらず一定の効果を発揮することが示唆される。

- 食事や遅刻の頻度といった生活習慣に関しては、居場所の利用前後で大きな変化がみられなかった。

⇒ 居場所と学校の連携、教育委員会との連携に対してよりアプローチをしていく必要がある。

(2) 子供の貧困対策支援員

- 支援員からサポートを受けたことで、子どもとの関わりが改善したり、子育てに対する心理的な負担感が軽減したり、心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人や気持ちを察して思いやってくれる人など日常生活をサポートしてくれる人が増えたりといった、保護者のソーシャルキャピタルにかかるポジティブな効果が見られた。

2 今後の政策課題について

- 遅刻や食事など子どもの状況を改善させるためのアプローチとして、すべての子どもたちと接している学校だからできる、広く居場所を紹介するなど居場所と学校の連携が課題であるため、その第一歩として、就学援助率の高い地域において居場所の設置を進めるべきである。

- 将来の希望や食事習慣のような課題は、踏み込んだ支援策が必要である。

⇒ 将来の希望が持てるような取り組みを地域と協働して居場所や学校にセットする、また、海外で実施されている学校における子ども食堂(朝食サービス)などの取り組みが必要である。

■ 子どもの声（自由記述欄より）

- 他の人に言えない事とか、たくさん相談できて悩みをためずにいられているところです。
- ともだちがふえて、いろいろなことがまなべて、知らないことを、たくさんスタッフやそのばしょにいる人たちがおしえてくれる。
- 自分に合った勉強のしかたをみつけることができた。席次があがった。将来のことについて考えることができた。
- 友達と仲良くできるようになったし、そこに行って友達もいっぱい出来た。『良かった』って思うことがいっぱいある！！
- ついて行けなかった勉強など、困っていることのたいはんはついてこれるように、気持ちもスッキリするように。
- まったく知らなかった人としゃべれるようになったし、大人をもっと信用できるようになったことがこの居場所にきてよかったこと。
- 友達もふえて、自分の人生が楽しくなった。
- 友だちがたくさんいてたのしかった。わたしがはじめていばしょにきたときにスタッフの先生がちゃんとわたしの目を見てくれて「よろしくね。」とってくれたことがうれしかった。
- 居場所に来る前は、高校卒業したらいいと言う気持ちだったけど来てからは、高校卒業してからのやりたい事や楽しみがでできた。

■ 保護者の声（自由記述欄より）

<居場所の利用について>

- 色々な方との関わりの中で、子供ながら社会のルールなどをしっかり学びながら、年の違う子供達との遊びや、話をすることなどをとても楽しんでいるようすで安心していきます。先生方もとても親切でとてもありがたいです。
- 学校での部活等に興味がなく、家でゲームばかりしていたり、友だちと遊んでトラブルが多かったが、利用する事で、本人なりにやりたい事や人づきあい等をうまくこなせるようになったと思う。将来の目標も出来たようで、少しずつだが精神面での成長も見られている。
- 毎日、怒ってたのが、利用するようになってから、全然怒らなくなった。子供が、落ちつくようになって、私が体調悪い時など、手伝ってくれたり、かなり、おりこうさんになっていて助かっている。
- 利用する前は、イライラが多く、暴言を吐くことがあったが、居場所を利用するようになってからは、楽しみが増えて、笑顔でいることが多くなりました。勉強も、少しずつ分かるようになり、本人の自信につながっているのが良かったと思っています。
- いろんな方との交流があったりする事で協調性が育った気がします。又、一人親などの支援が少ない中、無料で子供が居場所に行けるのは、ありがたいです。もっと居場所を増すべきだと思います。
- 1人親で仕事から帰り、子供の勉強を毎日見る事にストレスからイライラすることが多く、子供にとっても良くないと思って悩むことがよくありました。週2日ですが利用させて頂いて気持ちが少し落ちつけるようになりました。

■ 保護者の声（自由記述欄より）

<支援員について>

- 今まで人に相談できなかった事を相談した事で、アパートさがしなど、色々手だすけしてもらい、とてもたすかりました。支援員のサポートのおかげで、心のささえになって長い間、なやんでうごけない事も少しずつ解決出来て、感謝しています。経済的にきびしく子供の無料の塾も行かせる事が出来て支援員に相談出来た事に感謝しています。役所の手続きもいっしょになって毎回来て相談してくれて、とてもたよりになります。
- 給食費の免除が助かります。就学援助のことなど分からないことばかりだったので、手続きをさせてくださり、ありがとうございます。子どもを修学旅行へ、参加させることが出来ました。
- 悩み事など聞いて頂き、その都度、必要なサポート等を教えて頂けるので、生活していく上で不安な部分が解消されていく安心感がある。
- 支援員に出会う前、相談できる方があまりいなくつらい日々を過ごしてましたが、今は毎週顔を出してくれて、ありがたく思ってます。
- 色々支援員の方にサポートしていただき本当にたすかりました。りこん後、何も考えきれてない自分に色々話をしてくれたり、色んな面でのサポートがあり、本当にありがたかったです。今では、色々まえむきに子供達とがんばっています。本当にありがとうございます。
- 心のつかえがかるくなり、力になってくれる人がいるという安心感があります。感謝してもきれないくらいです。本当にありがとうございます。